

貝 塚 市 立
中 央 公 民 館

目 次

◆年間総括	中 1
◆講座・事業	
□ 青少年対象事業	中 8
レッツ TRY 事業（中高生の活動支援）	
貝塚少年少女合唱団	
夏の子ども講座（幼児・小学生・中学生対象の講座）	
こめとみそ（子ども食育講座）	
□ 子育て支援事業	中 13
赤ちゃんルーム（0歳児を持つ親や妊婦の交流の場）	
保育つき講座 おや子教室	
□ 成人対象事業	中 17
つるかめ大学（おおむね 65 歳以上の方対象の講座）	
いすヨガと筋トレ＜高齢介護課共催講座＞	
健康体操と筋トレ＜高齢介護課共催講座＞	
めざせ！健康バランスごはん＜高齢介護課共催講座＞	
シニアあそびたい会＜高齢介護課共催講座＞	
ゆる〜く運動をはじめよう	
スマートフォン体験講座	
居場所をつくる	
□ 共生社会づくり事業	中 27
夢にチャレンジ（心身に障がいのある方対象の講座）	
ホッとワーク（視覚に障がいのある方対象の講座）	
ふれあい料理（心身に障がいのある方対象の講座）	
介護について語り合う場	
日本語会話よみかき教室（日本語学習支援講座）	
□ 文化振興事業	中 32
文化事業	
ピアノリレー	
□ 人材養成事業	中 35
遊び隊（あそび隊・折り紙グループ）	
保育ボランティア	
日本語会話よみかき教室ボランティア	
ふれあい料理ボランティア	
□ 地域連携事業	中 39
第 68 回中央公民館まつり	
ロビー活用	
地域出前講座	
移動公民館「健康サロン」	
親子で楽しむ 1DAY イベント	
ほかでもがんばっているよ	
□ 団体支援事業	中 48
中央公民館クラブ協議会	
貝塚学習グループ連絡会	
貝塚ファミリー劇場	
貝塚子育てネットワークの会	
文化団体	
利用者団体代表者会	

令和6年度 中央公民館 事業総括

はじめに

公民館活動は令和元年末にはじまるコロナの流行により大きな打撃を受け、令和元年度には6万4千人だった公民館利用者数が、令和2年度には2万7千人に減少した。令和3年度以降は公民館の利用回数、利用者数とも徐々に回復傾向にあるものの、依然としてコロナ以前の水準には戻っておらず、近年では、利用者の高齢化などの課題が顕著になってきている。

他方、公民館クラブに関する問い合わせが増えてきており、学びの場、新たな生きがいづくりの場としての公民館への関心が高まりつつある。

このような状況下での今年度の取組みについて、令和6年度貝塚公民館事業方針に基づき定められた重点目標に沿って、事業別に状況・成果・課題をまとめた。

1. 公民館主催事業

- ・市民誰もが親しみやすい文化・学習活動の場を提供するとともに、市民の生活課題を反映させた講座・事業を展開して社会教育への理解を深め、地域づくりに向けた意識の醸成を図る。
- ・関係機関との連携により、校区・町会などを拠点にした交流や学びの機会を増やし、異世代間の交流や協働を進め、子どもと大人がともに豊かに成長できる環境を醸成する。
- ・関係機関及び地域団体と公民館で活動するグループ等とのネットワークの構築と地域に根ざした学習活動を支援し、地域コミュニティの活性化を図る。
- ・公民館が実施する各事業・講座の中に、SDGs（持続可能な開発目標）及び人権の視点を取り入れていく。
- ・Wi-Fi 環境を積極的に活かし、誰もが参加できる学びの場をつくる。

＜状況・成果＞

- ・地域の福祉施設や公民館を拠点に活動する団体など29団体の参加により、「第68回中央公民館まつり」を開催、延べ6千人以上が来場した。昨年よりも子どもの参加が多く、会場は大いに賑わった。
- ・公民館事業として地域出前講座や移動公民館「健康サロン」、また、公民館クラブなどの公民館利用者や「あそび隊」などのボランティアが主体となった「ほかでもがんばっているよ」の活動を地域の学校や福祉施設、町会館、老人会などで実施した。
- ・共生社会づくり事業の講座では、協力したボランティアや公民館利用者が、講座での交流を通じて障がいのある人や市内で生活する外国の人と文化について理解を深めることができた。
- ・ジャズやクラシックなどのコンサート、ピアノリレー、ロビー展示などの事業により、多くの市民が文化に触れ、親しむ機会を持つことができた。

＜課題＞

- ・介護者や不登校の児童生徒を持つ保護者など悩みを抱える人たちが学び、交流の場ともなるような講座を実施していく。
- ・主に定年退職後の高齢者や若年層の新規利用が増えるよう工夫を凝らした講座の実施。
- ・庁内の各課、他の社会教育施設、自主活動団体など連携し、地域課題の解決につながる講座の実施。
- ・公民館の講座・事業を展開する上で協力が必要な各種ボランティア人員の確保。
- ・SDGs が市民の身近な課題であることがわかるよう、公民館が実施する講座・事業が、SDGs が掲げる目標の実現と関わりがあることを積極的にアピールしていく。
- ・公民館で活動する人たちの新たな活躍の場、生きがいの場、異世代交流の場として、地域学校協働活動への参加を促していく。
- ・事業を通じて、オンラインの活用を一層推進していく。

① 青少年対象事業

- ・「夏の子ども講座」など子どもたちが多世代の大人と交流しながら学習・体験できる講座、事業を実施する。
- ・レッツ TRY に団体登録している中学生及び高校生のグループ活動を支援するとともに、現在登録のある音楽・ダンス以外の分野でも活動ができることを広報していく。
- ・貝塚少年少女合唱団が新規団員獲得に向け、発表の機会を多く持てるよう活動を支援する。

<状況・成果>

- ・夏休みの期間を利用して実施する「夏の子ども講座」は、クラブなど13団体の協力により14講座を実施し、延べ241人の子どもたちが参加した。今年は貝塚子育てネットワークの会の協力により、夏休みの宿題の見守りや学校の課題に取り組む講座を新たに実施した。なお、健康推進課からの申入れにより、次年度から「キッズキッチン」は実施しないこととなった。
- ・貝塚少年少女合唱団は、今年度新たに4人が入団したことで、10人を超える団員で幅広く舞台演奏ができるようになり、曲目のレパートリーを増やすことができた。
- ・講座「こめとみそ ー育てよう未来の自分ー」では、子どもたちが日本の伝統的な食材である米と味噌について学びながら、工夫を凝らしたみそ汁やおにぎりを作ることができた。

<課題>

- ・公民館が勉強や音楽、ダンスなど青少年が様々な活動ができる場であることを知ってもらい、「レッツ TRY」の登録団体数を増やす。
- ・効果的な情報発信による貝塚少年少女合唱団の新規団員獲得。

② 子育て支援事業

- ・子育て中の親が安心して講座に参加できるようにし、保護者同士が交流し、子育てに関する情報が共有できる場を提供していく。
- ・父親や家族が参加できる「かいづか家族の日」関連事業・講座に取り組む。
- ・地域ぐるみでの子育てを推進するため、子育てに関係する各課とも連携し、子育て支援活動の地域への拡大をめざす。

<状況・成果>

- ・0歳児をもつ親や妊婦を対象とする「赤ちゃんルーム」は、貝塚子育てネットワークの会の協力により、子育てや地域の情報が得られ相談ができる場、子育て中の親同士が繋がる場として、受講者のニーズに応えている。
- ・「保育つき講座 おや子教室」では、子どもの発達にとって「あそび」が大切であることや、歯と顎について学ぶ中で「食」に対する意識が変わるなど、受講者が新たな気づきを得られる講座を開催できた。

<課題>

- ・講座内容の充実と広報の工夫により受講者を増やす。
- ・受講者を子育てサークルや子育て講座への参加につなげていく。

③ 成人対象事業

- ・様々な成人の興味・関心に沿ったテーマを取り上げ、講座の参加者を増やしていく。
- ・若い世代などをひきつけ魅力のある講座を「まちのすぐれもの」登録者の講師活用も視野に入れながら開拓していく。
- ・講座終了受講者に対しクラブ化を勧めるなど、自主学习グループの形成につなげる。
- ・高齢介護課をはじめとする関係行政機関と連携し、アクティブシニア層が地域とつながる意欲を高める講座を実施する。
- ・若年層・勤労者・高齢者など、普段、公民館に足を運びにくい市民が参加できるよう、オンラインを活用した講座、開催日時を工夫した講座、地域出前講座などに取り組む。

<状況・成果>

- ・高齢者を対象とした講座「つるかめ大学」は、SDGsをはじめ、平和と人権、災害対策など様々な課題を学び、また、寺内町ウォーキングや介護予防運動、俳句など多彩な講座メニューに取り組む中で、受講者同士の関係を深めることができた。
- ・高齢者の健康増進および介護予防の取組みとして、運動と栄養をテーマとする講座「いすヨガと筋トレ」「目指せ！健康バランスごはん」「健康体操と筋トレ」を高齡介護課との共催により実施した。初めて公民館を利用する受講者も多かった。
- ・若年層や働く世代向けに実施した「ゆる〜く運動はじめよう」は、講師と意見交換しながらいろんな世代が参加しやすい講座となるよう工夫した。講師の声掛けで笑顔の絶えない明るい講座となった。
- ・講座「居場所をつくる」は、近年、社会的課題となっている不登校児童やダブルケアラーなど、生きづらさを抱える人たちの居場所づくりについて考える機会となった。

<課題>

- ・「まちのすぐれもの」登録者の講師活用。
- ・公民館が主催する講座から公民館クラブ等への参加や自主グループの形成につなげていく。

④ 共生社会づくり事業

- ・障がい者対象講座を通じて、障がい者の社会参加を支援し、かつ、障がい者とボランティアとの交流により、互いが成長できる場を創出していく。
- ・外国人技能実習生を含む海外からの移住者増加に伴い、「日本語会話よみかき教室」への需要が高まる中、支援者の増員を図り、かいづか国際交流協会（KAIFA）などの関係機関とのさらなる連携を進める。また、日本語学習にとどまらず、利用者・市民との異文化理解・交流などの取組みを進める。
- ・「介護について語り合う場」については、学びの場から介護者を支援する活動へとつなげていく。

<状況・成果>

- ・「日本語会話よみかき教室」は読み書きの学習だけではなく、受講者が日本で不自由なく生活できるようサポートもした。また、受講者同士の交流も深めることができた。
- ・障がいがある青年たちのチャレンジの場である「夢にチャレンジ」では、受講者が公民館クラブのメンバーからアドバイスを受けながら、公民館まつりに向けたダンスの練習やキーホルダーづくり、パンづくりに意欲的に取り組んだ。
- ・料理を通じた障がい者の社会参加の場である「ふれあい料理」は、ボランティアとの会話により、レシピに応じて個々の受講者ができることを探りながら料理を作った。
- ・視覚に障がいのある人を対象とする講座「ホッとワーク」は、ボランティアやクラブ員の協力を得ながら、料理や煎茶、朗読、体操など、普段はなかなかできない体験や学習ができる貴重な場となっている。
- ・「介護について語り合う場」は、当事者が不安や悩み、将来の希望を語り、他の参加者と共有できる場となってきた。

<課題>

- ・様々な背景を持つ受講者に寄り添った講座の運営。
- ・他課の事業とプログラムが重ならないよう情報交換を行う。

⑤ 文化振興事業

- ・各種コンサートを実施及び芸術作品を展示することで、身近に多様な芸術・文化にふれる機会を創出し、文化を通して生活にうるおいと安らぎを与えられるまちづくりをめざす。

<状況・成果>

- ・今年度も、クラシックコンサート、ジャズライブ、春一番コンサートなどの主催事業を開催し、多くの人に生の演奏を聴いてもらう機会をつくった。
- ・ピアノリレーは、日ごろの練習の成果を発表する場にする参加者や、コンサートに向けた練習の場にする参加者、他の楽器とのコラボを楽しむ参加者など、様々な目的で利用されている。

<課題>

- ・幅広いジャンルの芸術・文化にふれる機会の創出。
- ・ピアノリレーについては、誰もが気軽に参加できるようPRなど工夫する。

2. 人材養成事業

- ・各ボランティア活動でのグループの自主性を育み、他の利用者や多くの市民とつながり互いに支え合う関係を広げる。
- ・公民館で学ぶ利用者に対して、地域学校協働活動など地域コミュニティ活動への参加を促していく。
- ・「まちのすぐれもの」登録者がその知識・特技を生かして活躍できる場をつくる。

<状況・成果>

- ・あそびボランティア「遊び隊」は、今年度も学校や地域の福祉施設に出向く活動を多く取り組んだ。また、新規隊員の獲得に向け、他館の高齢者講座に出向くなど活動の広報にも努めた。高齢のため折り紙隊がいなくなり、「あそび隊」となった。
- ・保育ボランティアは、交流会を通じてボランティア同士のつながりを深めることができた。
- ・日本語会話よみかき教室ボランティアは、貝塚国際交流協会（KAIFA）で行われた教室見学会に参加し、他市町の教室と取組みを情報交換した。また、中央公民館で開催した市町村識字・日本語学習泉南ブロック交流会では、受講者の母国料理づくりを通して交流を深めることができた。

- ・ふれあい料理ボランティアは、久々に研修会を実施し、ボランティア同士の交流を深めた。また、依頼により視覚障害者の講座「ホッとワーク」でも講師の予定があった。

<課題>

- ・各ボランティアのスキルアップ。
- ・ボランティアの楽しさを多くの人に知ってもらい、新規ボランティアを増やす。

3. 地域連携事業

- ・「公民館まつり」を通して、広く地域の人々に公民館活動を知ってもらう。
- ・地域における健康づくり、集まりの場づくりのツールとして、町会、老人クラブ等に「地域出前講座」「移動公民館」の活用を促していく。

<状況・成果>

- ・中央公民館まつりは、今年もバザーや館内での作品展示、ホールでの舞台発表、屋外での模擬店・野外舞台を実施し、2日間で延べ6千人が来場した。特に、今年は市内全校児童・生徒にチラシを配布したことで子どもたちの姿が多く見られ、会場は大いに賑わった。
- ・町会館等に出向いて実施する地域出前講座、移動公民館「健康サロン」は、地域からの依頼が増え実施回数が徐々に増えつつある。地域出前講座は「まちのすぐれもの」登録者が活躍できる場となりつつある。
- ・音楽グループかたつむりの提案により、「親子で楽しむ1DAY イベント」を「かいづか家族の日」関連事業として実施。音楽や人形劇を楽しみながら親子がふれあう場をつくり、父親を含む90人の親子が参加した。
- ・ロビーは、受験勉強や読書、作品展示、打ち合わせなど多用途で市民に活用されており、様々な人々が集い、コミュニケーションと情報収集を図る場となっている。

<課題>

- ・中央公民館まつり実行委員会など、会議の持ち方。
- ・地域出前講座・移動公民館を通じて自治会・老人会など地域の集まりの場づくりを支援していく。

4. 団体支援事業

- ・新規クラブ員獲得による公民館クラブの担い手の確保と活性化に向け支援する。
- ・公民館活動から培われる市民グループや文化団体の自主的な活動を支援し、各団体の地域交流貢献活動を促進する。
- ・社会的課題を捉えた市民企画講座をきっかけとする新たな学習グループの発足を促し、学習グループ連絡会の活性化を図る。

<状況・成果>

- ・中央公民館クラブ協議会は、公民館まつりや公民館大会実行委員会への参画、また、地域担当・研修、レクリエーション、広報の各部会の取り組みを通して、役員、委員の絆を深めることができた。
- ・学習グループ連絡会は、公民館の講座を通じて活動をアピールした結果、活動に興味を示し見学を希望する人がいた。
- ・今年度も貝塚ファミリー劇場、貝塚子育てネットワークの会、各文化団体と共催事業を実施し、団体の活動を支援した。

<課題>

- ・「クラブ体験講座」を積極的に開催し、新規クラブ員の獲得を支援していく。
- ・各支援団体の役員など新たな担い手の育成を支援し、活動を継承していく。
- ・市民企画講座の開催など自主学習活動の促進。
- ・学習グループ連絡会の活性化と新たな学習グループを連絡会につなげていく支援。

《主催講座・事業・共催事業》

事業区分	講座・事業名		受講者数	期間	回数	延べ参加者数
青少年対象事業	レッツ TRY			通年	—	—
	貝塚少年少女合唱団・定期演奏会			9/8	1回	110人
	こめとみそ（子ども食育講座）		10人	11/16～2/23	4回	36人
	夏の子ども講座	牛乳パックでトコトコロボを作ろう	19人	7/20	1回	19人
		小石に絵を描いて自分だけの宝物を作ろう	19人	7/22	1回	19人
		キッズキッチン	各24人	7/22・30・8/3	3回	70人
		習字を好きになろう	10人	7/25	1回	10人
		パンを作ろう	8人	7/25	1回	8人
		野菜で絵手紙	12人	7/27	1回	12人
		超簡単マリトッツォと水ようかんの 生チョコ包み	各24人	7/27・8/18	2回	46人
		団員とみんなで楽しく歌いましょう	2人	7/28	1回	3人
		つげさん手話教室	10人	7/30	1回	10人
		夏休みの宿題しよっ	8人	8/1	1回	8人
		みんなで楽しく歌おう（中学生）	1人	8/4	1回	1人
		和楽器を演奏しよう	8人	8/8	1回	8人
		オリジナル風車をつくろう	16人	8/10	1回	16人
カラフルいなり寿司をつくろう	13人	8/17	1回	13人		
支援 子育て	赤ちゃんルーム		73組	4/8～3/24	19回	208人
	保育つき講座「おや子教室」		6組	10/29～12/10	8回	36人
成人対象事業	つるかめ大学		79人	4/8～12/2	21回	1247人
	いすヨガと筋トレ（高齢介護課共催講座）		20人	7/1～29	4回	65人
	健康体操と筋トレ（高齢介護課共催講座）		24人	11/21・28	2回	39人
	めざせ健康バランスごはん （高齢介護課共催講座）		15人	6/27～7/18	3回	38人

	シニアあそびたい会（高齢介護課共催講座）	5 人	1/31・2/14	2 回	9 人
	ゆる〜く運動をはじめよう	24 人	5/14～6/4	4 回	42 人
	スマートフォン体験講座	17 人	11/11・25	2 回	34 人
	居場所をつくる	—	3/1・8	2 回	42 人
共生社会づくり事業	夢にチャレンジ	12 人	4/20～3/15	11 回	69 人
	ホッとワーク	11 人	5/28～3/25	10 回	91 人
	ふれあい料理	36 人	4/26～3/28	11 回	222 人
	介護について語り合う場		4/22～2/17	6 回	50 人
	日本語会話よみかき教室		4/2～3/31	111 回	330 人
文化振興事業	クラシックコンサート		11/17	1 回	59 人
	ジャズライブ		1/26	1 回	65 人
	春一番コンサート		3/16	1 回	65 人
	ピアノリレー （GW・七夕・Xmas・ひなまつり）		5/5 ・ 7/7 ・ 12/22・3/2	4 回	452 人
人材養成事業	遊び隊	12 人	4/5～	55 回	2041 人
	保育ボランティア	11 人	10/29～12/10	8 回	55 人
	日本語会話よみかき教室ボランティア		4/2～3/31	111 回	439 人
	ふれあい料理ボランティア	13 人	4/26～3/28	11 回	126 人
地域連携事業	第 68 回中央公民館まつり		5/25～26	1 回	6000 人
	第 68 回中央公民館まつりバザー		5/19	1 回	250 人
	ロビーの活用				—
	地域出前講座		6/11・7/28・8/24 10/26・3/23	5 回	107 人
	移動公民館「健康サロン」		4/18～2/9	11 回	162 人
	親子で楽しむ 1 DAY イベント		12/15	1 回	90 人
団体支援事業	ファミリー劇場・例会		6/23～11/16	2 回	186 人
	ファミリー劇場・こども市		4/21		200 人
	ファミリー劇場・共催事業 「寄せ鍋寄席」		12/8	1 回	137 人

	貝塚市軽音楽連盟・ライトミュージック		2/16	1 回	100 人
	貝塚市民踊連盟・市民民踊まつり		5/12	1 回	210 人
	貝塚市クラシック音楽家協会・ クラシックコンサート		5/19	1 回	317 人
	貝塚市美術協会・貝塚市美術協会展		9/14・15	1 回	90 人
	貝塚市美術協会・小作品展		1/12～26	1 回	—
	貝塚市民謡連合会・民謡フェスティバル		11/10	1 回	70 人
	貝塚市合唱連盟・合唱フェスティバル		12/1	1 回	310 人
	クラブ協議会・バスツアー		11/13	1 回	80 人
	クラブ協議会・にっこり展 (障害者施設合同作品展示)		8/31～9/15	—	—
	クラブ協議会・研修会		3/9	1 回	75 人
	貝塚子育てネットワークの会 プレーパーク GW/夏/秋/春		5/4～3/30	14 回	1781 人
	貝塚子育てネットワークの会 乳幼児部会共催講座 「子どもが楽しい 親も楽しい みんな集まれば大家族」		5/28～11/22	5 回	100 人
	園児部会共催講座 「Enjoy みんなでつながろう」		5/30～12/12	6 回	85 人
	小学生部会共催講座 「子どものええやん見つけたい」		5/16～12/5	4 回	67 人
	中高生部会共催講座 「思春期をともにのりきる!!」		5/21～12/16	4 回	56 人
	貝塚子育てネットワークの会・研修会		10/15	1 回	40 人
	利用者団体代表者会		2/27・3/3	4 回	74 団体
三館連携事業	しゃべり場★公民館		4/26～3/13	17 回	246 人
	保育ボランティア養成講座		1/30・2/6	2 回	9 人
	第 13 回貝塚公民館大会		2/2	1 回	140 人
	第 13 回貝塚公民館大会第 2 弾		3/11	1 回	73 人

【表の見方】「受講者数」は、申込を受理した人数。記載のないものは当日参加、または 1 回限りの事業
「参加者数」は、「延べ参加人数」欄に記載。ボランティアにおいては「登録人数」

レッツ TRY 事業

<ねらい>

青少年(主に)中高生の活動を行う上で必要な場の提供。

活動全般を支援することで、自主性を高める。

公民館に若者を呼び込む。

<状況・成果>

新規登録2組

登録グループ名 (ペガサス・クレイジー、かいいち、ダンス練習の会)

今年度の登録団体数は 3 団体で、ダンスグループとコーラスグループの登録となった。

レッツ TRY の事業周知のため、公民館 3 館共通のチラシを作成した。また、学生が公民館に来たときには、声掛けを行い、公民館の使用につなげるよう努めた。

かつて、公民館ではさまざまな青少年グループが活動し、公民館を支えていたが、以前のように多くの青少年が公民館を利用することは難しい時代となった。このレッツ TRY 事業が青少年の利用につながれば良いが、思うような利用拡大にはつながっていない。

現在、学校教育現場では既存のクラブ活動や高校生の社会学習の場として、公民館をはじめとした社会教育施設と連携していくことが模索されている。

今後、青少年の居場所として、公民館をもっと利用してもらうよう、PR 方法を工夫しこれまで以上に積極的に青少年に訴えていくことが肝要である。

公民館において、このレッツ TRY の事業が、青少年の居場所づくりを持続させ、多世代の交流などさまざまな学びや視野を広げるような場となるよう、今後も努力を続けていく必要がある。

<課題>

青少年のニーズや青少年をとりまく状況を把握し、効率的な周知展開をはかる。

学校教育課ほか関係施設等との連携。

夢にチャレンジ

<ねらい>

障がいのある青年（年齢を問わない）たちのチャレンジの場、社会参加の場とする。

公民館のクラブ利用者やボランティアとの交流を深めるとともに、関わった人たちの障がい者理解につなげる。

<状況・成果>

4/20～3/15 第3土曜日 10時～12時 全11回 登録12人

前期は、昨年度に引き続き、10人のメンバーでスタートした。後期になると、山手の講座「ふらっとサークル」が開催できなくなったため、職員からの呼びかけで1人の受講者が加入したが、長い間継続して参加していた2人がやめることになった。1人は市内から転出するという理由だったが、もう1人は、保護者に事情を聞いたが、理由はわからずであった。また参加したいということになれば連絡をくれるということになった。

今年も5月の「中央公民館まつり」の舞台でダンスを披露することになり、大人のHIPHOP チェケラッシュの協力を得て、公民館まつりに向けてダンスの練習に励んだ。練習では、自信なさげに踊っていたりと不安な部分もあったが、本番では、動きも大きく元気いっぱいには踊っていた。観客から手拍子が聞こえ、ホール全体に一体感も感じられ、受講者も協力してくれたチェケラッシュのメンバーも楽しかったようだ。6月は、「自分だけのキーホルダーづくり」を開催し、受講者たちはどのようなデザインや色にしようか講師のアドバイスを受けながら丁寧に作成していた。7月は「パンづくり」に取り組んだ。受講者同士が和気あいあいと活動しており、パンができあがると、嬉しそうに携帯電話で写真を撮ったり、待ちきれず「早く食べたい」といった声もあった。

後期は、小石に絵を描こうから始まり、楽器や料理の講座で楽しんだ。中でも、ドラムを叩いてみようでは普段の講座では表情が硬い受講者が笑顔で本当に楽しそうにしていたことが印象的だった。事業所の開所日が変更になったり、行事が重なってしまったりと参加人数が少なくなってしまうが、講座中は受講者同士で声掛けをしたり、講師が上手くサポートしてくれ、入りやすい雰囲気づくりができており、自分のペースで楽しく活動できている。

<課題>

受講者が意欲的に活動できるような声掛けや支援を行う。

興味を持って参加できるようなプログラムの検討。

《プログラム》



月	内容	講 師	月	内容	講 師
4月	夢チャレ はじまるよ～ 楽しくおどろう HIPHOP①	大人のHIPHOP チェケラッシュ	11月	絵手紙	絵手紙クラブ
5月	楽しくおどろう HIPHOP②	大人のHIPHOP チェケラッシュ	12月	クリスマス会	料理ボランティア
6月	キーホルダーをつくろう	革トントン	1月	バレンタインチョコをつくろう	貝塚の知恵袋
7月	パンづくりにチャレンジ	パンづくりクラブ	2月	お茶（煎茶）体験	中賀 祐子
9月	小石の絵を描いてみよう	月曜絵画	3月	公民館まつり～ダンス～	大人のHIPHOP チェケラッシュ
10月	ドラムを叩いてみよう	北尾バンド			

ホッとワーク

<ねらい>

視覚に障がいのある人たちに多彩な体験や学習の場を提供する。

障がいのある人たちの可能性を広げ、主体性を高めて精力的な日々を過ごす力をつける。

公民館クラブやボランティアの協力で、障がいのある人たちと交流を深める機会とする。

<状況・成果>

5/28～3/25 第4火曜日 10時～11時 (全10回) 受講者11人

近年、高齢化が進み病気や介護施設への入居・通所により受講者数は減少している。このままでは講座がなくなるのではと、受講者から心配の声があがることもある。10月には、広報かいつかで知ったと申込があり、翌月にも広報を見て申込があるなど、細々ではあるが講座を必要としている人がいることも事実である。今年度は受講者は減ったものの、新たに2人の申込があり11人となった。

講座のはじまりには、受講者の近況報告を交えて出欠を取ることにしている。話のテーマを設けるとユーモアを交えて語る人もおり笑い声で一気に場が和む。

5月に煎茶体験を楽しみ、6月の朗読劇では、金子みすゞの詩の朗読に聴き入っていた。朗読のあとはサルビアのクラブ員も近況を語りながら受講者と交流を深めていた。また、料理は年に2回してほしいとの要望があり2回の料理を入れるなど、体験型の講座も好評である。

年度末には講座の感想や意見を出し合い1年を振り返っている。受講者のひとは料理講座でのサポートに対し「(出来栄の)結果ではなく、過程を大事にしてもらいたい。(サポートが手厚すぎると)、自分たちの自立にはつながらないのだから」と力強い意見が出された。料理や創作の場面ではボランティアが受講者の安全を第1に進めている。どこまで見守るのか、どこで力を貸すのか、ボランティアの関わりに一石を投じる意見であった。



また、他課でも視覚障がい者の講座を開講しているため、プログラムが重ならないよう情報を交換する必要がある。

講座を通してどのような関わりが自立につながり、個々の幸せにつながるのか、受講者や関係課との対話を増やして講座の内容を深めていきたい。

<課題>

新規受講者、現受講者の積極的な参加につながる内容と広報の充実。

他課の事業とプログラムが重ならないように情報交換を行う。

<プログラム>

5/28	煎茶体験	中賀祐子	11/26	料理(果物大福ほか)	貝塚の知恵袋
6/25	朗読と交流	サルビア	12/17	ハンドベルを体験	おりいりか
7/23	落語	満腹亭楊枝	1/28	室内楽を楽しむ	アンサンブル BUNS
9/24	体を動かそう	高橋智子	2/25	料理(豚まん) 中止	料理ボランティア
10/22	野ばらのリースづくり	ろうの花	3/25	茶話会(振り返り)	相互

ふれあい料理

<ねらい>

料理を通して障がい者のできることを伸ばす。障がい者の社会参加の場とする。

ボランティアをはじめ、他者との交流を深める。

<状況・成果>

4/26～3/28 毎月第4金曜日 10時半～12時半 (全11回) 受講者 27人

市内5施設(いぶき、どんまい、夢二色、あすなろ、らぱん) 一般2人

ふれあい料理ボランティア 15人

料理ボランティア(以下ボランティア)のレシピ説明から講座が始まる。今日のレシピで何ができるかを受講者とボランティアで会話をしながら料理を進めていく。包丁を使うことが苦手な人は、ボランティアに手を添えてもらいながら切るなど、できることをみんなで探し、協力して作っている。

あるとき、受講者がやけどをし、氷で冷やすなどの対応をした。その後ボランティアともう少し注意をして目を配ることを確かめ合った。また、施設ごとに座席をかため、施設の職員の目が届きやすくした。

料理ができると毎回、食前食後の挨拶を受講者がしている。初めは職員の声掛けで、前に出てきていたが、後期に入ると受講者の方から挨拶をしたいと出てくるようになった。挨拶をすることが、受講者の自信につながっている。

12月には、総勢48人でのクリスマス交流会を行った。受講者で部屋の飾りつけを担当し、ボランティアが用意したクリスマス料理とケーキで食事を楽しんだ。受講者からは、この日のために練習をしたダンスやオカリナの出し物があった。去年に引き続き、ホロホロウクレクラブの協力で、クリスマスソングの演奏もあり、とても盛り上がった。

<課題>

講座を安全におこなえる体制づくり。



4月	豆のキーマカレー、マカロニサラダ他	11月	親子丼、サラダ、みそ汁他
5月	豚肉の蒸し煮粒マスタード添え他	12月	クリスマス会
6月	肉巻きおにぎり他	1月	白菜のクリーム煮、ぎょうざ
7月	皿うどん、みたらし団子他	2月	牛肉の混ぜずし、白菜のだし煮
9月	サラダちらし、あんみつ他	3月	振り返りの話し合い
10月	じゃがいもオムレツ、担々スープ他		

介護について語り合う場

<ねらい>

介護に携わる人たち相互の交流と学習。

介護当事者の孤立や介護の不安を無くし、精神的な負担の軽減をはかる。

<状況・成果>

4/22～2/27 偶数月の第4月曜日 13時半～15時（全6回） 受講者 延べ50人

今年度はさまざまな介護者支援について、国の施策も含めて動きがあった。

近年、子育てと介護を同時に担うダブルケアラーについて新聞や雑誌などで取り上げられる機会も多くなり、支援の輪も広がってきている。同じく18歳未満で家族の介護を担うヤングケアラーもこの数年で支援制度の整備が進んでいる。ダブルケアラーやヤングケアラーの支援は、子育て、教育、介護など、各々自治体の担当部署が異なっているため、部署を横断した相談・支援体制の構築が急がれている。そこで、介護について語り合う場では、自治体の動きや法整備などダブルケアラー、ヤングケアラーの相談・支援体制について学習した。また、介護者はひとりで悩みを抱え込み孤立することも多いことから、国の孤立・孤独対策推進の動きについても学習した。

今年度、介護者である家族と一緒に、認知症患者本人が講座を受講した。まだ初期の認知症ではあるが、本人は自身が認知症を発症してもできることをやっていきたい、できるだけ外でいろんな人の話を聞きたいと前向きだ。好きな料理や、旅行、趣味の話、普段の活動について、いろいろ話をしてくれる。もちろん不安もあるだろうが、家族の支えもあって、常に穏やかな表情で講座に参加している。

令和6年12月には認知症施策推進基本計画が成立したが、そこで提唱されたのが「新しい認知症観」だ。これまでのように認知症は発症したら何もできなくなるというわけではない。個人としてできること、やりたいと思うことにどんどん挑戦し、認知症になっても住み慣れた地域で仲間とつながりながら自分らしく生きることができるという考え方である。

今年度の講座は、まさしく国の推進する「新しい認知症観」に合致した事例でもあり、いつも参加している他の受講者も、患者本人が語る思いや不安、これからの希望などを聞き、大きな刺激を受け、新たな発見や学びにつながったようだった。

<課題>

社会福祉協議会や地域包括支援センター等関係機関との連携。

多様な介護者（ヤングケアラー、ダブルケアラーほか）に対する支援についての情報共有。

自身が介護者と認識していない人や周囲の人にも気づきを促すような働きかけ。

	内 容	受講者数
4/22	（相互）資料；育児と介護のダブルケアについて	10人
6/24	（相互）資料；「孤独・孤立対策に関する施策の推進を図るための重点計画」ほか	13人
8/26	（相互）資料；「子ども・若者育成支援推進法の改正」ほか	5人
10/28	（相互）資料；認知症と向き合う「幸齢社会」実現会議「意見のとりまとめ」ほか	8人
12/18	（相互）資料；「認知症施策推進基本計画」概要ほか	6人
2/27	（相互）資料；《新聞記事》ダブルケア「支援会議」ほか	8人

日本語会話よみかき教室

<ねらい>

在住外国人やさまざまな要因で日本語が不自由な人たちに日本語の読み書きの支援をする。

日本で安心して生活できるようにそれぞれの問題、相談ごとに対応し、支援を行う。

<状況・成果>

4/2～3/31 受講者 30 人 ボランティア 17 人

日本語の読み・書き・会話に困っている人たちにボランティアが教える講座で、各館の開講状況は下記表の通りである。今年度も受講者は全員在住外国人であった。

公民館の教室では日程や時間が合わない人や他の教室でも勉強したいという人には、かいづか国際交流協会（KAIFA）で行う日本語教室の紹介をしている。

ボランティアは、受講者一人ひとりに寄り添い、それぞれの生活に合わせてどのようなことを学びたいか相談しながら学習を行っている。また、学習だけでなく受講者のくらし全般の相談に乗るなど、日本での生活が不自由なく過ごせるようサポートしており、受講者も困った時には頼れる場所があることを心強く思っている。

今年度も引き続き、山手地区公民館での夜間の受講希望が多く、教室の需要がますます高まっている。だが、公民館で日本語教室があることを知らなかったという声も多く寄せられたことから、市内公共施設等に新しいチラシを再度配架してもらったり、SNS等の広報手段も使い広く周知した。

教室では受講者同士、回を重ねると顔見知りになり、生活の情報交換をするなど出身国が違っていても打ち解けて話している。

11 月に大阪府の事業を活用し、KAIFA と合同で泉南地域の識字・日本語ボランティアのスキルアップを目的とした研修及び交流を行った。

同様に、12 月には受講者のベトナム出身者を講師としてベトナム料理講座と自国についての話をし交流会を行った。講師である受講者は、台本を考えたり、人前に立ち発表することで、今まで知ることのできなかった日本語を知ることができ自信をつけた。

<課題>

必要とする人に情報が届くよう、広報の工夫を行う。

安定して受講が継続できるようなサポートをする。



開催場所	曜日・時間	回数	受講者数	出身国
中央公民館	火・10 時～12 時	44 回	86 人	中国、ベトナム
浜手地区公民館	火・10 時～12 時	18 回	57 人	中国、ブラジル
山手地区公民館	月・19 時半～21 時	38 回	177 人	ベトナム、キプロス

貝塚少年少女合唱団

<ねらい>

主に年長、小中学生を対象に、合唱練習や発表を通じて青少年の健全育成をはかる。

活動を通して本市及び地域における音楽文化の発展につなげる。

育成会（保護者会）の自主活動を支援する。

<状況・成果>

4/7～ / 59回(練習及び行事)

指導者 4 人、団員 16 人(男子 4 人・女子 12 人) 名誉団員(高校生) 2 人

今年は昨年から参加の年長 4 人に加え、新たに年長 1 人、小学生 3 人の団員が加わった。高校生の団員も加えると、舞台上に 10 人以上の団員が揃い、華やかになった。

練習はレベルに合わせて、年長と小中学生とに時間帯を分けた。また、合唱発表の際も小中学生と高校生のみ、年長も入った団員全員というように、レベルに合わせて曲目を分けるようにした。

今年も、貝塚少年少女合唱団の活動を PR するため、積極的に発表の機会を見つけて参加するようにした。中央公民館まつりやピアノリレー、山手地区公民館まつりへの出演に加え、今年も善兵衛ランドの「たそがれコンサート」や「水間デジタルアートフェスティバル in 水間寺」などの外部イベントに多数ゲスト出演した。

また、夏の子ども講座にも協力し、今年は小学生対象と中学生対象の 2 回に分けて受講者の募集を行ったところ、小学生 3 人、中学生 1 人の参加申込があった。

9 月には、コスモシアター中ホールにて第 46 回定期演奏会を開催した。

団員が増えたことにより、曲目のレパートリーも多くなり、児童用の合唱曲に加え、馴染みのあるアニメや、ミュージカルの曲なども披露した。

毎年恒例のオペレッタは、阪神大震災を描いた「ゆずちゃん」。いつも楽しく遊んでいた友達「ゆずちゃん」が被災し、残された仲間たちがふうせん屋になりたいと言っていたゆずちゃんに思いをはせるといった内容で、感動的な舞台となった。

今年の卒団生は 2 人。第 3 部では「明日への扉」を披露した。卒団生 2 人は直前まで公民館で、自主練習を重ねていた。リハーサルでは緊張して声が出ていなかったが、OB や仲間の応援に支えられ、本番では美しい歌声を披露した。

2 月には、大阪府下の少年少女合唱団が集まる「ミュージックプラザコーラス」に出演した。今年度は会場がコスモシアター中ホールとなったため、担当市として、受付や準備などに協力した。

本番当日は、指揮者が不慮のケガで出演できなくなるというアクシデントがあった。団員にとってはショックなことで、本番まで動揺していたようだが、他の指導者や育成会と OB の励まし、見守りを受け、気丈に舞台に上がった。舞台では、緊張した表情を見せつつも、懸命に 3 曲を歌いきった。

今年は団員も増え、より充実した活動ができた。年長や小学校低学年の団員が増えたため、練習の合間にはみんなで楽しそうに遊んでおり、賑やかな様子が印象的だった。

子どもの卒団や新規入団などに伴い、団員の保護者で構成する育成会の顔ぶれも変化しつつある。中には新たに中心となって活動してくれる人材が育ってきているようだ。

中央公民館では SNS 等で合唱団の活動について積極的に発信するだけでなく、演奏活動の打合せ

に同席し、講師の相談にも応じるなど、団に寄り添った支援を行った。

今後は地域学校協働活動への協力をはじめとして、さらなる活動拡大を模索していき、公民館として全面的に支援していく。

＜課題＞

効果的な情報発信等周知方法を模索し、合唱団の活性化と団員の増加を図る。



第46回定期演奏会
下はオペレッタのようす

日程	一年の活動内容
4/14	入団式
5/5	GW ピアノリレー（中央公民館）
5/27・28	中央公民館まつり（野外舞台、模擬店）
7/23	夏の子ども講座「団員とみんなで楽しく歌いましょう！」
8/3	善兵衛ランドたそがれコンサート
8/4	夏の子ども講座 「みんなで楽しく歌おう！ 中学生」
8/18・25	第46回定期演奏会に向けた強化練習
9/10	第46回定期演奏会（コスモシアター中ホール）
10/20	山手地区公民館まつり（舞台）
11/16	デジタルアートフェスティバル in 水間寺
12/1	合唱フェスティバル（コスモシアター中ホール）
12/15	クリスマス会
12/22	Xmas ピアノリレー
2/2	ミュージックプラザ（コスモシアター中ホール）
3/2	ひなまつりピアノリレー



水間鉄道デジタルアートフェスティバル
出演のようす

夏の子ども講座

<ねらい>

夏休み期間を利用し、子どもたちが公民館で様々な体験や学習ができる場。

子どもたちが公民館クラブやボランティア、地域の大人と交流しふれあえる場。

<状況・成果>

7/20～8/18 受講者延べ 241 人 14 講座 17 枠 協力 14 団体 申込総人数 556 人

ここ数年、クラブや団体に「できる限り中学生の受け入れをお願いします」と伝えてきたので、受講できる講座が徐々に増加し、目に留まることも増えたのか、今年は中学生の応募が増えた。

しかし中学生の中には、7月に入ってからキャンセルが何人かあった、これは締め切りが6月中で、その時点で7月8月の部活やその他の予定が分からないからではないかと思われる。キャンセルは小学生でも、体調不良や寝坊、家庭の用事と毎年数名はある。

今年度の特色として、受講者の学年を指定する講座が複数できた。

その一つ、健康推進課との共催講座「キッズキッチン」は昨年までは対象が小学生～中学生で毎年抽選のでる人気講座だったが、小学3年から中学生としたことで定員割れの日もあった。それでも、申し込み終了後の先着受付ですべて定員になった。逆に対象を小学生～中学生にした食に関する講座は定員8人のところ90人が、また定員15人のところが93人という応募で低学年の食講座への人気の高さがよくわかった。

新しい取り組みとして貝塚子育てネットワークの会（以下、ネット）の「夏休みの宿題しよっ！～私たちが見守ります～」がある。これは公民館から声掛けしたが、もともとはネットが数年前から自分たちで行っていたもので、ネット以外の子どもも受け入れる講座として開催した。内容は、前半1時間はそれぞれ持ち込んだ宿題をし、後半はアナログゲーム（トランプやジェンガ、人生ゲームなど）で遊びを体験する。後半の遊びでは、知らない子ども同士でぎこちなさもみられたが、次第に仲良くなり楽しかった、前半は集中して勉強ができたとアンケートに書かれていた。

たくさんの子どもたちが公民館で同世代、異世代との交流、作品づくり、体験など夏休みの良い思い出を作ることが出来た。

講座のアンケートには、初めての体験に驚いたり、難しく感じて楽しかったという感想が多かった。一緒に参加した保護者からは、普段は忙しくしており、こんな機会にゆっくりと子どもに向き合えたという感謝が書かれていた。

今年は猛暑で、新聞やTVでは頻繁に熱中症予防について流れていた。職員は例年以上に子どもの様子に気を配りつつ講座を見守ったが、料理系の講座では気分が悪くなる子どもが複数いた。

毎年人気の高い「キッズキッチン」は担当課から次年度は開催しないと告げられた点は残念である。

<課題>

子どもたちが体験したいと思う講座の企画。

健康管理になお一層気を配る。



こめとみそ - 育てよう未来の自分 -

かいづか家族の日関連事業

<ねらい>

料理作りを通して、子どもたちの生きる力を育む。

発酵食（みそ）のことを知る、育てる。

親子のコミュニケーションを深める。

<状況・成果>

11/16、12/7、1/26、2/23 土曜日・日曜日 10時～12時（全4回） 受講者 10人

講師：MALU。 - 農家のえんがわ - 縣紀子 岩本有希

タイトルどおり、米と味噌を用いておにぎりともそ汁を自分で作るという講座だ。初回にみそ作りをし、各自家に持ち帰って味噌を発酵させる。発酵したみそを用いて4回目にみそ汁を作るため、どの子も家で大事に育て味噌の発酵を見守っていた。中には学習机の上に置いて、勉強をしながら眺めていたという子もいた。

また、おにぎりともそ汁の具材は各自が決めるため、家族と相談して決めた。親子で対話をして具材を決め、4回目にはそれぞれお気に入りの具材を家から持ってきておにぎりともそ汁を作った。

講座は発酵の期間があるため11月から2月までと長丁場の講座となった。この間に子どもたちの交流を深めたるために、月に1度は講座を行った、2回目はおはぎづくりを行った。熊と羊の形のデコおはぎをしたところ子どもたちに好評でユニークな熊や羊ができあがった。

3回目はみそ玉づくりと土鍋と炊飯器でごはんの炊き比べを行ない味の違いを確かめた。ごはんを何度も噛んで甘味を感じたり、香りや見た目など五感を使って真剣な表情で食べていた。

みそ玉は簡単に作れてお湯をかけるだけという手軽さに感動し、家で作って家族に食べさせたいという声があった。

子どもたちは全体的におとなしく静かな様子であった。講師もいろいろな話題で話を引き出そうと試みたが、子どもの方から積極的に話をする場面はあまりなかった。それでも「講座が楽しみ」と言って休むこともなく子どもたちは最後まで受講し続けた。

最終回では自分で作った味噌汁が今までで一番美味しいとの声が多く聞かれ、家にかえって早速家族にみそ汁を作ったという子どももいた。後日、ある家族から、食べ物の大切さや、作り手の想いなど講座を通して大切なことが学べた、との感想があった。

<課題>

子どもたちの対話の時間を増やして、意見交換や情報交換の場として相互の関係性を深める。

プログラム

11/16(土)	みそづくり・お米のはなし	1/26(日)	みそ玉・ごはん炊き比べ(土鍋と炊飯器)
12/7(土)	デコレーションおはぎ	2/23(日)	おにぎりともそ汁を作ろう



赤ちゃんルーム

<ねらい>

0歳児をもつ親や妊婦が気軽に仲間づくりや情報収集できる場。

子育ての不安や疑問を出し合い、交流できる場。

既存のサークルや講座へつなぐ場。

<状況・成果>

4/8～3/24 第2・第4月曜日 10時～11時半（全19回）受講者延べ208人 スタッフ7人

今年度はコロナの規制がなくなり、事前申し込み制を廃止した。また、上の子を連れての希望があり、参加者が少なくスタッフの体制が取れる場合は、未就園児の上の子のも受け入れた。運営については、貝塚子育てネットワークの会（以下、ネット）から7人の先輩お母さんがスタッフとして関わった。ネットと担当職員は定期的にミーティングを行い、よりお母さんたちが気軽に話をでき、楽しめる環境を作るために季節に合わせたおもちゃづくりの内容や講座の内容を考えている。また、講座の準備もネットと共にを行った。

講座を広く知ってもらおうとSNS等広報手段を工夫し、市の子育て支援アプリ「ためまっぷ」へ単発チラシを掲載したり、離乳食講習会、ネットの乳幼児部会で呼びかけた。中でも離乳食講習会ではひとりひとりに直接声をかけることができ効果があった。去年までは、ママパパ教室へ宣伝をしていたが、妊婦だと実感がわかず参加には至らないという声がスタッフからあり、とりやめた。

宣伝の際に、事前申し込み制を廃止したことにより、赤ちゃんの朝の機嫌に合わせて来たり途中から参加することもでき、気軽に参加できるという声が聞かれた。

お母さんたちに参加の理由を聞くと、「引っ越してきたばかりで貝塚市の子育て情報を知りたい、周りに子育て中の人がおらず相談をする人がいない」等、つながりを求めていることがうかがえた。病院や子育て支援課などで相談するほどではないものの、「ずっとモヤモヤしていたことが赤ちゃんルームに来て話すことでスッキリした」というお母さんもいた。中には、今後、就労を希望する人もいて、子どもの預け先などスタッフに相談したり、母親同士のつながりもでき、赤ちゃんルームはとても話しやすいという声も多数あった。

今年度より、毎回自己紹介をした後にテーマをもうけて話をすることから講座を始めている。最初に話すきっかけを作っておくことで、お母さんたちの悩みや相談がしやすく、お母さん同士、スタッフも交えて子育てや地域の情報などを、毎回和気あいあいと話をし、安心して親子で過ごす居場所になっている。

<課題>

参加者を増やすために、0歳児をもつ保護者・妊婦へ届く広報を工夫する。

子育てサークル、講座の参加へつなげる。



《プログラム》

開催日	内容	開催日	内容
4/8	お散歩で春みっけ！	11/11	昔懐かしの手作りおもちゃ
4/22	手作りでんでん太鼓	11/25	図書館へ行ってみよう！
5/13	親子でわらべうたとふれあい遊び	12/9	お家でできるふれあい遊び
5/27	手作りおもちゃを作ろう	12/23	はじめてのクリスマス
6/10	父の日制作（足型）	1/27	おはなし防災 もしもをいつもに
6/24	はじめての人形劇	2/10	はじめてのバレンタイン
7/8～9/9	はじめての水あそび	3/10	赤ちゃんの食について
10/28	はじめてのハロウィン	3/24	はじめてのお散歩



保育つき講座 おや子教室

<ねらい>

子どものあそびと発達について学ぶ。

子育ての不安解消をはかり、子育ての悩みを共有できる場。

ストレスやイライラをリフレッシュし、子育てに前向きに取り組める機会とする。

<状況・成果>

10/29～12/10 火曜日 10時～11時半（全8回） 受講者6組

今回のおや子教室は「あそびと発達」をテーマに講座を開催した。

前半は、子どもの発達に「あそび」がどう影響するか、子どもの発達に大切な「食・あそび・言葉がけ」について学んだ。受講者の感想から「あそびは親が用事をする間にさせるもの」だと思っていたという意見もあり、あそびが子どもにとってとても重要な役割があるということは受講者にとって新しい発見だったようだ。また、体験の場として「プレーパークでおもいっきりあそんじゃおう」に取り組んだが、体調不良や家の用事と重なったため、1組のみの参加であつた。



プレーパークは、子どもが活き活きと活動している姿が見られ、あそびの大切さが感じられる場所であると考えため、次年度は多くの受講者に参加してもらえるよう講座開催日程などの見直しが必要であると感じた。

後半では、歯・顎の発達について学んだ。歯並びや口内の状態が、姿勢や呼吸にも影響し、また脳の発達やコミュニケーションにまで関係があるという深い話であり、受講者は熱心に話を聞いていた。食と体幹を関連付ける実験を目の当たりにし、食に対する意識が変わったようだった。

また、子育ての先輩である保育ボランティアに講師として来てもらい、「話してみよう・・・」の講座も行った。講座では、開講式の際、事前に受講者から聞いていた質問などを題材に話をした。「子育てにイライラした時のストレス解消法」や「男の子と女の子の育児の違い」について話題にあがった。受講者は、保育ボランティアや他の受講者の話を聞いたり、自分の話もじっくり聞いてもらうことができ、共感し合えたり、発見があったりと楽しい時間を過ごし、受講者同士打ち解けたようだった。

全講座を通して受講者は、子どもから離れてリフレッシュするとともにゆっくり学ぶことができ、充実し



た時間を過ごせたようで、来年も受講したいという嬉しい言葉があった。

今回、受講者数が例年より減ってしまったことが懸念されるが、子育て中のお母さんが気軽に子育ての話や相談をしたり、交流できる大切な場であるため、講座の存在をもっと知ってもらい、お母さん同士のつながりの場としてさらに支援していきたい。

《プログラム》

	日 程	内 容	講 師
1	10/29	はじめまして！自己紹介	相 互
2	11/5	子どものあそび	朝日 陽子・高岡 和美 (NPO 法人えーる)
3	11/9 (土)	みんなでプレーパークで おもいっきりあそんじゃおう!!	朝日 陽子・高岡 和美 (NPO 法人えーる)
4	11/12	子どもの発達とあそび	朝日 陽子・高岡 和美 (NPO 法人えーる)
5	11/19	子どもの歯（顎）と発達①	小島 理恵（小島歯科医院 副院長）
6	11/26	話してみよう・・・	藤田 珠美・堀 麻実 (保育ボランティア)
7	12/3	子どもの歯（顎）と発達②	小島 理恵（小島歯科医院 副院長）
8	12/10	講座まとめ (保育室のビデオ上映)	相 互

～感 想～

- ・改めて「遊び」の重要性を学ぶことができて良かったです。子どもがやりたいと思った時はやらせてあげたり、忙しくても子どもをしっかり見てほめてあげたり、意識して行ってきたいと思います。
- ・今日お話を聞くまで「遊び」は私達親が用事をする間の子どもの過ごす1つのアイテムのようなイメージを持っていました。「遊び」は主食というお話は新しい発見でした。
- ・最近子育てをされていて、余裕がなかったり、イライラしたりすることがあって反省する日々なのですが、今日話を聞いて子育てで大切なことを再認識できたり、少しでも意識を変えたりしていきたいと思いました。ためになる話ばかりで機会があればまたお話を聞きたいです。
- ・今日のお話を聞けただけでも、このおや子教室の講座を受講して良かったと思いました。
- ・「子どものやりたい気持ちを見守ろう」あんまりできていなかった気がします。つつい危険を回避したり、汚れないようにしたり・・・もう少し見守る育児を心がけようと思います。子育てに遅いはない!!まだ遅くはないと信じて行動しようと思います。



<課題>

講座内容を引き続き充実させる。
受講者を増やすための周知方法。

つるかめ大学

<ねらい>

人生 100 年時代。持続可能な暮らしと社会を考える。

支え合い、助け合い、励まし合う関係を育む。

前期

<状況・成果> 4/8～7/8 月曜日 10 時～12 時（全 11 回）受講者 78 人（平均年齢 80 歳）

1964 年に開講したつるかめ大学は 60 年を迎えた。毎年 10 人前後が入れ替わり、今年も新規受講者 12 人を迎え 78 人で開講した。受講者が多いため 6 班に分け、班活動として講座の準備や片付け、つるかめ交流会や戸外での活動は班行動をとるように促している。そうすることが顔の見える関係性を育み、班の結束力を高めている。

つるかめ交流会では学期ごとに講座のふり返しを行い、受講者の意見や感想を元に次のプログラムを組んでいる。ここ数年は、SDGs の理念^①も意識しながら、高齢者にとって持続可能な社会とはどういう社会なのかを投げかけながら、孤立しない関係づくりを目指している。



前期は山手地区公民館の津軽三味線クラブの演奏で開講し、伊藤宏さんには人権やジェンダー、平和を中心に講義をしてもらった。西成・釜ヶ崎で芸術活動を続ける上田假奈代さんからは表現を通した男女共同参画社会への形成や平和について学ぶ機会を得た。受講者が毎回楽しみにしている合作俳句は、つるかめ大学の定番となり新規受講者も打ち解けるきっかけとなった。

岡本康敬さんには江戸時代の庶民のくらしと相互扶助について考える機会をもった。特に江戸時代の話は現代のくらしとつながるものがあり、より身近に感じたようで好評だった。半面、今は便利な世の中だが、近隣とのつながりが希薄になっているとの意見が出され、地域のつながりや相互扶助の在り方を問い直すきっかけとなった。

また、寺内町ウォーキングで願泉寺を訪れ、本堂の中を参拝したことは貴重な体験だったと喜ぶ声があった。一方、今岡真和先生の介護予防運動は大阪河崎リハビリテーション大学の授業に協力する形で 2 コマ行った。緊張した面持ちで指導する学生に受講者は温かい言葉をかけていた。講座といえば、いつもは受け身の立場だが、微力ながら学生の育成に貢献したと思える一場面だった。

座学ばかりでなく、交流カフェや食事会などは新規受講者が班に馴染みやすくなる場面である。こうした機会を生かして、6 つの班はそれぞれに結束を固めつつある。

後期は、各班の自主性や主体性をさらに高めていけるように内容を考えたい。

① SDGs は基本理念として「誰一人取り残さない」を掲げている。

<課題>

班活動の自主性を促し、顔と名前が一致する関係をつくる。

自己を語り、他を認め合う関係性をさらに深め、支え励まし合う仲間づくりを進める。

—成人対象事業—

＜前期プログラム＞

4/8	開講式 津軽三味線	津軽三味線（山手）	6/10	合作俳句	上田假奈代
4/15	つるかめ交流カフェ	相互	6/17	食事会（泉大津ワシントンホテル）	
4/22	ゴジラから平和を考える	伊藤宏	6/24	介護予防フィールドワーク	今岡真和
5/13	江戸時代に学ぶ	岡本康敬	7/1	つるかめ交流カフェ	
5/20	願泉寺参拝		7/8	前期修了 落語	満腹亭楊枝
6/3	介護予防フィールドワーク	今岡真和			

後期

＜状況・成果＞ 9/2 ～12/2 月曜日 10時～12時（全10回）受講者75人

夏休みを挟み後期が開講。新規受講者の反応が気になる時期だが休むことなく通っている。全体の出席率は前後期通して8割を超えることが多く、つるかめ大学に通うことが生活の中に浸透しているようで長期の休みは寂しいとの声が聞かれた。

後期は、上下水道の災害対策やごみ問題など環境に関した事柄を含め、普段の暮らしと持続可能な社会が地続きであることを身近に感じながら学習をした。数年前まではタブーとされた終活や墓の問題は、受講者から企画提案があったこともあり質問も多く、積極的な学びの姿勢が見られ関心の高さがうかがえた。他班の人との交流も深めたいと、くじ引きで座談会の班を決めた、ごちゃまぜ交流会は「同郷の人が見つかった」「同じ趣味の人と出会い、話がはずんで楽しかった」と好評で、再度取り組みたいとの声があがった。修了式では各班の出し物が披露され、それに向けた準備や練習など各班が自主的に集う姿があった。自分たちが提案したことが講座として形になることで、講義後の質問にたくさんの手が挙がるなど講座に積極的に関わる姿や、活き活きとした表情が見られた。



つるかめ大学での学びが個々の幸せや生きがいにつながると同時に、その学びが地域や社会でも生かされ、豊かさや幸せを感じられるようにとの目標を伝えつつ60年の節目であった修了式を迎えた。

＜後期プログラム＞

9/2	開講式（ウクレレ）	ホロホロウクレレ	10/28	食事会	紀州加太休暇村
9/9	つるかめ交流カフェ ごちゃまぜ交流会	相互	11/11	歌をうたおう	歌声サロン
9/30	上下水道の災害対策	貝塚市上下水道部	11/18	つるかめ交流カフェ	相互
10/7	ゴミと暮らし	大阪環境カウンセラー協会	11/25	体を動かそう	岩井和夫
10/21	終活を考える	古家彦彦	12/2	修了式（音楽）	MuKu

＜課題＞

自己を語り、他を認め合う関係性をさらに深め、支え励まし合う仲間づくりを進める。
個々のウェルビーイング^②の向上を図り、地域や社会を豊かにする学びを目指す。

②ウェルビーイングとは身体的、社会的、精神的に良い状態にあること

いすヨガと筋トレ（高齢介護課共催講座）

<ねらい>

フレイル予防。高齢者でも参加しやすいように椅子を使用。

家庭にあるペットボトルを利用したトレーニング方法を学ぶ。公民館での仲間づくり。

<状況・成果>

7/1、7/8、7/22、7/29 月曜日 14時～15時（全4回）受講者 20人

講師：津田 美穂（シニアヨガインストラクター、まちのすぐれもの）

ここ数年、高齢介護課と共催で開催している講座。開催時期や曜日を変えて企画しているが、毎回好評で今回も 36 人の申し込みがあった。初回は高齢介護課から挨拶と、介護予防の意味を持つ講座だと説明があった。

今回の受講者は「公民館を初めて利用する」「いすヨガ講座に初参加」という人が半数近くいて、話を聞いてみると「広報かいつかを見て、講座を申し込んだ」とのことだった。

男性受講者は「イスを利用するので、多少足腰に不安があっても参加しやすく、ヨガだけでなく筋トレに興味があったので申し込んだ」と受講動機を話してくれた。今までもいすヨガは何度も開催してきたが、ほぼ女性受講者で男性 3 人が同時に受講というのは珍しいことだった。講師とは「男性が受講したくなるキーワード（今回は筋トレ）のようなものがあるそう」と話をした。

講師は協力的で「今回はペットボトルを使い、筋トレをしてほしいと言われ普段はしない動きをいくつか入れてみました。見ていていかがでしたか？」といつもと違う動きについて聞いてくれた。

毎回、まずは体を温め、筋トレを行い、ヨガで終了する。「1 時間があっという間に終わってしまった」「久しぶりにたくさん笑った」「簡単な動きだけど体に効いていると思えた」など 4 回が終了しても、この講座をクラブにして続けたいという声が上がったが、公民館の部屋の空き状況や講師の調整が難しいことから、クラブ化へ働きかけることができなかった。

受講者には、既存クラブの一覧やクラブ協議会発行の「どらせな」の紹介をして、引き続き公民館へ来る機会を促した。

<課題>

受講者が望む講座の継続。

講座からクラブ化への働きかけ。



健康体操と筋トレ～いっしょに動きましょう～（高齢介護課共催）

<ねらい>

フレイル予防。

自分の足で歩き続けるための筋トレを学ぶ。

公民館での仲間づくり。

<状況・成果>

11/21、11/28 木曜日 13時半～14時半 （全2回） 受講者 24人

講師：高橋 智子（健康運動指導士）

今年の共催講座は筋力トレーニング（以下、筋トレ）を取り入れることにした。

前期に開催した「いすヨガ」ではペットボトルをダンベル代わりに筋トレをし、この講座では道具（おもり）は使わず自重（自分の体重）で、いつでもどこでもできる筋トレの方法を学び体験する講座とした。

講師には何度も講座を依頼しているので、顔なじみの受講者も複数いたり、楽しい雰囲気です。講座は進んだ。また2回講座だったが、公民館利用者の知り合いがいたり、他講座で知り合いになった人たちがいたりして、挨拶や近況報告で講座開始までの時間も賑やかだった。

受講者は高齢者といえども、体力差はあり「無理せず、こちらの動きでもいいですよ」「痛みがある人は見ていてください」といった講師の声かけで、自分にあった動きを選びながら怪我や事故もなく講座は終了した。

受講者の中には他の講座と比べて「（他施設の講座で）いつもしている運動よりもハードだった。でも、楽しかった」「実は同じ日に、別の運動に行ってるけど、高橋先生なので、この講座を優先した」といった話が聞けた。アンケートには「講座の回数を増やしてほしい」や「毎月2回ぐらい定期的に高橋先生の指導で開催してほしい」とあったが、講師との日程調整や公民館の空き部屋の状況が難しく、既存のクラブを紹介するに留まっている。

<課題>

市民の希望する講座の開催。

運動が継続できる機会。

クラブ化への促進。



めざせ！健康バランスごはん（高齢介護課共催講座）

<ねらい>

高齢者の栄養、特に低栄養について学ぶ。

旬の食材を利用し免疫力を上げたり、夏の暑い時期でも簡単にバランスの取れたメニューを学ぶ。
食を通した仲間づくり。

<状況・成果>

6/27, 7/4, 7/18 木曜日 10時～12時 （全3回） 受講者 15人

講師：畠山 智子 大西 隆子（公民館料理ボランティア）

初回、高齢介護課から講座には介護保険料が使われており、介護予防の視点で講座を設けているとの説明があった。

講師からは、「お腹がいっぱいと栄養が足りているということは必ずしも同じではない。近頃は簡単にお腹を満たす手段があつて、菓子パンやコンビニ弁当、外食や冷凍食品とさまざまある。しかし、これらばかりに頼ると体に良くないこともわかっている。暑い夏に向かう時期に、簡単に調理でき、不足しがちな栄養が取れるメニューを一緒に作り食べましょう」と、講座の初回到話をしてくれた。講師の話は、初めて公民館を利用する受講者には親しみやすく感じたようだ。

この講座の特徴は、二人組で調理を行うことである。かつては大家族だったが、現在は夫婦二人や一人暮らしが増えてきた。そこで実生活に近い人数分を調理し、それぞれの家庭に反映しやすくすることと、二人で協力して調理するので自然と会話もはずむことを意図している。

2回目の講座中、怪我をした受講者がいた。公民館は保険での対応を行ったが、その一方で、怪我をした受講者を車で送ったり、乗ってきた自転車を届けたりと受講者間で自然に助け合いの輪ができあがっていたことは、嬉しい出来事だった。

講座中の会話やアンケートから「レシピを見て作ったら家族に好評だった」「簡単で美味しかったので、晩御飯に作った」など学んだことを、実生活に生かしていることが知れた。

【アンケートより】

- ・3回のメニューはどれもすぐに役立つものばかりでした。
- ・この年（70代）になって、知らない食材を食べることができ嬉しかったです。
- ・主婦目線での先生トークは面白く、興味深い内容でした。長年主婦をしています、目からうろこなお話で有意義でした。
- ・特別難しいお料理ではなく、簡単なお料理で家でも作れるものばかりで、既に家で何回か作り、家族に好評でした。

<課題>

高齢者の栄養について学ぶ機会。

仲間づくり。受講者の安全を確保。

6/27	肉豆腐・もやしときゅりの胡麻酢和え・味噌汁・ごま豆乳ゼリー
7/4	トマトと鯖缶のそうめん・ゴーヤ炒め（チーズ入）・きゅうりのみょうが風味・抹茶かん
7/18	ひよこ豆のキーマカレー・ナン・きゅうりとトマトのサラダ（カチュンバル）ラッシー（飲むヨーグルト）



シニアあそび大会（高齢介護課共催講座）

<ねらい>

あそび隊への入隊につなげる。

高齢者の社会参加の機会をつくる。

<状況・成果>

1/31、2/14 金曜日 10時半～12時 全2回 受講者5人

講師：あそび隊

年々あそび隊の隊員が減少していることから、高齢介護課に相談をし、あそび隊を講師とし高齢介護課との共催講座を行った。受講者は5人と少なく、5人中4人は公民館を利用したことがある人だった。1回目の講座は、細かい作業で手先をつかう脳のトレーニングとして、缶のプルを使い今年の干支であるへびを作った。最初は、プルにも裏表があることや、紐を通す場所や順番を間違え苦戦していたが、徐々にコツをつかみ、会話を弾ませながら楽しそうに作っていた。手先をつかう作業のため最後まで完成したのは1人だった。「帰ってから続きをしたい」という人や「家で集めれるもので作れるからまた孫と一緒に作りたい」という感想があるなど、脳のトレーニングにもなり楽しめたようだ。

2回目は、実際にあそび隊が子ども園や学童、町会などで作っているおもちゃや、昔遊びで交流をした。コマ回しや皿回し、折り紙の他にも、あそび隊員が自作したクレーンゲームを体験した。高齢になっても社会参加しイキイキと活躍するあそび隊員の姿をみて一緒に活動に参加したいという人もいて隊員たちも喜んでた。

この講座をきっかけにあそび隊の新規隊員が一人増えた。今後は、まだ公民館を利用したことがない人にも公民館には活動の場があり、高齢でも活躍できる場があることを伝えていきたい。

<課題>

講座の周知方法。



ゆる〜くを運動はじめよう

<ねらい>

働く世代や若者が公民館活動に参加するきっかけづくり。

市職員に公民館や講座を知ってもらう機会。

<状況・成果>

5/14、5/21、5/28、6/4 火曜日 18時半～19時半（全4回）受講者 15人

講師：岩井 和夫（一般社団法人関西ジュニアスポーツ能力開発協会理事、USJダンサー）

夕方、仕事帰りにふらっと公民館を利用してもらおうと企画した講座。働く世代や若者が隙間時間に公民館で健康づくりや、公民館を知るきっかけづくり。それに加えて「貝塚公民館は市職員に知られていない」「広報下手」という課題解消に向けて、市職員にも公民館を知ってもらう機会とした。

広報がいつかへ掲載するだけでなく、市職員がアクセスできる庁内掲示板や市役所壁面にポスターを貼るなど市職員への広報活動を行った結果、庁内掲示板を見た2人の申し込みがあった。しかし、夕方時間にも関わらず半数が高齢者だった。



参加理由を聞いてみると高齢者からは「ゆる〜く運動と書いてあったし、一人暮らしで自由に時間を使えるから」「娘に勧められて、初心者向けと書いてあったから」などがあり、働く世代からは「なんだか楽しそうだし、子どもの習い事でできた隙間時間だったので」「職場から近く、運動系で楽しそうだったので」とあった。

講師は公民館クラブの元講師に頼んだ。講座内容を相談する過程でダンスは楽しいが、講座のタイトルに「ダンス」をいれると苦手意識がでて敬遠されるので、「体ほぐし」や「初心者向け」といった参加しやすい動きや音楽で行うなどいろいろな意見交換をした。

4回の講座で1曲のダンスを仕上げていく内容だったが、1回目より2回目と講座が進むにつれて受講者同士も慣れ、「この足はどうしたっけ？」「この手はどっち？」と水分補給の時間も話し合う姿があちこちで見られた。

講師も「相手を見て」「そこは自由に」「上手になってきたね」「スターになったつもりでターンして」とみんなにたくさん声掛けし、受講者たちもそれが嬉しかったようだ。

ねらいの一つであった、市職員が多く受講し、そこから団体となり、クラブ化できたらと思っていたのだが、期待していた働く世代や職員がそれほど集まらずグループ化は断念した。しかし、下は30代から上は80代の異世代交流ができ、公民館を知るきっかけづくりになった。

【アンケートより】

- ・70歳で初めてダンスをしました。とても楽しかったです。ありがとう
- ・すごく楽しかった。最初は不安でしたが、みなさんと楽しくダンスができて良かった。
- ・久しぶりに動いて、楽しく夜を過ごしました。
- ・楽しかった。皆笑顔でよかった。時間もよかった。

<課題>

市職員に対し公民館の認知度を上げる。

クラブ化を進め、公民館の活性化につなげる。

スマートフォン体験講座

<ねらい>

デジタルデバイド解消のきっかけとして、スマートフォンに親しむ。
便利な機能を知る機会とする。

<状況・成果>

① 11/11、②11/25 月曜日 13時半～15時半（全2回） 受講者①17人、②17人

講師：ソフトバンク スマホアドバイザー（各回3人）

社会全体の情報通信技術が発達していく中で、デジタルデバイドの解消が新たな課題となり、従来より3公民館それぞれスマートフォン（以下スマホ）に関する講座を開催してきた。中央公民館では、昨年度に引き続き、ソフトバンクスマホアドバイザーの協力により、体験機（iPhone）を貸出してスマホ体験講座を開催し、2回の講座で延べ34人が受講した。スマホをすでに持っている人の受講が多いが、中には「スマホを購入するか迷っている」ので、一度お試しで使ってみたい」と受講した人もいた。



初回は、情報弱者にならないためのスマホを使った情報入手体験として、ニュース、気象情報の入手方法や、グーグルを使って調べ物をする方法などを、2回目は、スマホの「楽しさ」「便利さ」を体験しようということで、地図や写真、LINE、音声アシスタントなどの便利機能の使い方を学んだ。

講座は、前のスクリーンに受講者に貸出しているスマホ体験機と同じ画面を映し、講師がスクリーン上の画面をタッチしながら操作を教えるという形式で進められた。講師はゆっくりと丁寧に操作方法を説明し、また、アシスタント講師2人が巡回して、操作がわからない受講者を個別に指導した。受講者からは、「（講師の）言葉がはぎれよく、聞き取りやすかった」「同じ機種を使用して講座を受けれたので、すごくよくわかりました。講師の方もとてもよかったです。有難うございました。今まで公民館などでスマホ講座を受けた事があったのですが、今日が一番よくわかりました」との感想が寄せられた。



実際に操作しながら、暮らしに役立つさまざまな機能を学んだことでスマホの便利さ、楽しさを知り、講座受講後にスマホを購入した受講者もいた。

今後は、iPhoneだけではなく他機種にも対応した講座、自分のスマホを使って操作方法が学べる講座、高齢者だけではなく障がい者も対象とした講座を他課と連携して実施するなど、デジタルデバイド解消に向けた取組みを幅広く実施していく必要がある。

<課題>

デジタルデバイド解消に向けて対象や内容等を検討し、継続して企画していく。
他課との連携。

居場所をつくる

<ねらい>

地域において生きづらさを抱えている人の居場所について考える。

公民館における学習活動と学習グループの活発化。

<状況・成果>

3/1、3/8 13時半～15時半（全2回） 受講者 延べ42人

少子高齢化、核家族化、コミュニティの希薄化などにより、人とのつながりや地域コミュニティの再構築の必要性が高まってきている。

国はこの間、地域包括ケアシステムの確立や孤独・孤立対策、子育て支援など福祉分野を中心にあらゆる分野で取り組みを進めている。取り組みの中では、孤独・孤立対策や介護、子育てなどあらゆる分野で「居場所」について言及される場合が多い。悩みや生きづらさを抱えている人たちが集い、話し合うことで、互いにつながるができる「居場所」は現代において重要な役割を果たすものと考えられている。

一方、貝塚市の公民館では、これまでも障がい者、子育て、介護者などを対象とした講座や、利用者、地域の人たちが触れ合える事業などに取り組んでおり、様々な人たちの「居場所」としての機能を公民館が担ってきた経緯がある。

上記の理由から、公民館という場において、様々な理由で悩みや生きづらさを抱えている人たちの居場所をつくるため、受講者各々何ができるかを考えてもらう機会とするため、また、公民館で学んだ後、受講者自身で課題解決のための行動を起こし、地域での活動につながるができるようにしてほしいと、今回の講座を企画した。

講座は2回連続講座とし、1回目は地域で実際に居場所づくりを行っている複数の団体に自身の活動内容を発表してもらい、受講者が居場所づくりの具体的事例を学ぶ回とし、2回目は居場所づくりの必要性や、意義、これからの課題など全体的なことを学ぶ回とした。

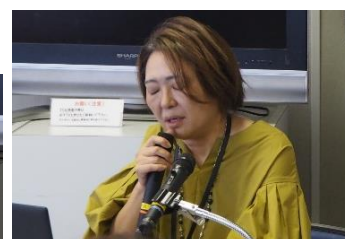
活動事例発表についてはいくつかの候補があったが、公民館では子育て支援事業や、介護者が集う「介護について語り合う場」の講座を行っている実績があることから、子どもと介護者支援の居場所づくりを行っている団体に話を聞くこととした。そこで遊びを通して子どもと親の居場所づくりを行う「冒険遊び場貝塚プレーパーク」の代表、田中亜希子さんと、ダブルケアラーの支援を行う「一般社団法人君彩（きみどり）」の代表、宮内葉子さんに話を聞くこととした。

また、公民館を中心に不登校児童の居場所づくりを行っている団体「Ch[∞]se」の代表、南沙織さんにも話を聞くこととした。

1回目の講座では、各々異なる活動ではあるが、三者三様の真剣かつ熱意を持って活動に取り組んでいる状況を聞くことで、受講者も大きな学びと感動があったようだ。



南さん



宮内さん



田中さん

—成人対象事業—

それだけではなく、同じ発表者どうしても、他の発表者の事例を聞くことで、「自分だけではない。方向は違うけれど熱量は同じ仲間がいる」と、大きな刺激を受けていた。

とくに子育てと親、兄弟などの介護が重なるダブルケアラーの話は、会場の子育て世代の受講者には、これまで考えも及ばなかった話であり、「自分も将来的にダブルケアラーになるかもしれない」と衝撃を受けていたようだった。

会場にはすでにダブルケアを経験したことがあるという受講者や、親の介護が必要になってきているので、ダブルケアラーになる可能性が高いという受講者もいて、講座終了後に宮内さんと話し込む姿が印象的だった。

2 回目の講座では、地域で居場所づくりを行う団体をいくつも調査し、「まちの居場所」の在り方についての実践研究を行っている立命館大学の小辻寿規さんに、ワークショップを交えながら講演してもらうこととした。

講演では「地域の居場所」が求められるようになった背景や、地域の居場所づくりの変遷、各地の居場所づくりの事例などについて、話をしてもらった。

受講者を 3 班に分けて行ったワークショップでは、全員に自分にとって居心地の良い居場所はどんなものを可視化する A3 サイズの「とっても居心地の良い居場所シート」を書いてもらった。そのうえで、実際に居場所をつくるならどのような居場所にするか、名称、来てほしい利用者、場所、提供メニュー、特徴などをワークシートにまとめてもらい、各班各々で話し合ってもらった。

受講者は絵を描くなどして、悩みながらも居場所シートやワークシートを仕上げ、各々自分にとって居心地の良い居場所について話し合った。ある班では、男性の居場所の必要性についても話し合われた。講演とワークショップを通して、居場所をつくるということは、何よりも自身が幸せと感ずることが大切で、自身にとって居心地の良い居場所をつくるのが他人にもより良い居場所となるのだと実感することができたようだった。

2 回の講座は、学習グループ連絡会（以下連絡会）のメンバーに協力してもらい、受付や講座看板の作成なども担当した。講座の中で学習グループの組織化や継続した講座の必要性について言及するなどしたが、自主的な学習グループの組織化までには至らなかった。ただし、学習グループ連絡会の活動に興味を示した受講者が「見学に行きたい」と興味を示してくれたようだ。

講座を通して、受講者のなかには「居場所の必要性」を認識したと言ってくれる人もいたことから、できれば、継続して居場所について考える講座を開催できればと考えている。

<アンケートより>

- ・3 講師の人達はみな大変だったでしょうが努力して立派に活動をされている事にとっても感動しました。もっと多くの人に参加し考えていかねばと思いました。
- ・「居場所」をつくることは必要だと思う。けれど色々な事を考えてすすめる必要があることを知ることができました。

<課題>

講座受講から自発的な学習グループの組織化につなげる具体的手法の検討



小辻さんと
ワークショップのようす

文化事業

<ねらい>

芸術や文化に親しむことができる場の提供。

公民館を利用したことのない人たちに公民館を知ってもらう機会とする。

<状況・成果>

◆クラシックコンサート

「前へ！～響きあうひととき～」(出演：貝塚市クラシック音楽家協会)

11/17 日曜日 13時半開演 場所：視聴覚室 来場者：59人

今年度はクラシック音楽家協会が40周年を迎えたことから、更なる高みを目指して前へ進めるようにという意味と1月の能登震災の被災者やコロナ禍で疲弊した人々など、様々な人や物事が前に進んでいけるようにという意味を込めて「前へ！」というタイトルとした。

11月は文化行事も多く、演奏者は多数のコンサートを掛け持ちすることもあり、演奏者の確保が難しい。しかし、クラシック音楽家協会は、このクラシックコンサートを優先的に取り組んでくれている。

当日は、声楽、ピアノ、ヴァイオリンの演奏者が、「勇気が持てて前を向ける曲」として、クラシックの名曲やミュージカル曲、ポップスをアレンジした曲など、多彩な演奏曲を披露した。

曲に入る前に、司会者が演奏者に落ち込んだ時の対処法を聞き、来場者は「とても参考になり元気が出た」という声があった。

～感想～

- ・貝塚では、クラシックの生の演奏を聴く機会が少ないので、今後もこのような催しを続けてほしいです。
- ・素晴らしい生演奏を聴けて心癒され元気が出ました。
- ・ダイナミックな演奏に聞き入りました。連弾も素晴らしかったです。
- ・司会者の方の説明により、曲にスッと入ることができました。

◆ジャズライブ

1/26 日曜日 13時半開演 場所：視聴覚室 来場者：65人

(出演：中野ひろしくインテッド)

ジャズライブは毎年人気も高く、楽しみにしている人も多い。今年も募集開始早々にチケットはすべて配布済みとなり、キャンセル待ちの人も20人以上となった。

以前は演奏者名を「中野ひろしくアルテット(4人)」としていたが、ドラムのメンバーがようやく成人を迎え、正式にプロとしてデビューしたことから、「中野ひろしくインテッド(5人)」となった。毎年このジャズライブに来ている人は、ドラム担当が学生のころから出演している姿を知っているので、「本当に立派になった」と目を細めて喜んでいた。

演奏はジャズスタンダード曲を中心に、ボサノバなども演奏され、心地良い響きに会場はゆったりした雰囲気包まれた。リーダーの中野氏は、曲にまつわるエピソードなども交え、軽妙な話で観客を引き込んでいた。数年前に病気を患ったが、そのようなことを感じさせないほど、見事なサックス演奏と話術を披露していて、観客は楽しいひとときを過ごした。

～感想～

- ・中野さんのアルトサックス生で聞けて、良かったです。他の楽器も近くで聞けて、感動です。
- ・ジャズの生演奏はきく事が少ないので、体が自然にリズムをとっていました。
- ・音楽好きだけど、コード進行とか良く分からず。やっぱりプロだなーと思いました。グループ演奏など、各人の体調や他の仕事とのかねあい大変ですが、これからも良い演奏続けてほしい。

◆春一番コンサート

3/16 日曜日 13時半開演 場所：視聴覚室 来場者：65人

(出演：サザンウインドアンサンブル)

春一番コンサートは30年以上にわたり公民館でコンサートを開催し、毎年来場している人も多く、たくさんの人が春の訪れを楽しみにしている。

演奏が始まる前に、司会者が演奏者に曲の注目点や背景、曲への想いを聞いた。ピアノの連弾では、ペダルの踏み方や隣への気遣いについて語っていた。「ガブリエル」の曲では、コロナ禍に日本人の演奏者がイタリアの病院の屋上で演奏し人々に感動をもたらした曲だという説明を聞き、来場者からは感動と誇りを感じたという声があった。

2部では、木管楽器だけでなくカホンを使った演奏があり前半の雰囲気から一変し、観客を引き込んでいた。

最後に来場者と演奏者が一体となり「故郷」を歌い会場全体が和やかな雰囲気で幕をとじた。

～感想～

- ・久しぶりに心がほっこりしました。
- ・一言一言のお話しが心に沁みました。
- ・毎年聞かせていただいています。春を感じて元気をもらっています。
- ・アンサンブルを間近で聴くことができとても貴重な経験でした。曲の特徴や背景などもとても勉強になりました。

<課題>

現在開催している文化事業に加えて、幅広く多彩なジャンルの文化芸術に触れてもらう機会を検討する。



クラシックコンサート



ジャズライブ



春一番コンサート

ピアノリレー

<ねらい>

老若男女を問わず、あらゆる世代の人に文化に親しむ機会を提供する。
公民館が身近な場所であることを知ってもらう機会とする。

<状況・成果>

GWピアノリレー	5/5	日曜日	9時～16時	参加者 63 人	演奏者延べ 19 人
七夕ピアノリレー	7/7	日曜日	9時～16時	参加者 53 人	演奏者延べ 26 人
Xmas ピアノリレー	12/22	日曜日	10時～16時	参加者 100 人	演奏者延べ 24 人
ひなまつりピアノリレー	3/2	日曜日	10時～16時	参加者 139 人	演奏者延べ 28 人

今年度も季節の節目ごとに4回開催した。貝塚少年少女合唱団のミニコンサートはピアノリレーで定着し観客も増えてきた。子ども達も発表の機会が増え、よい練習の場になっている。

毎回参加している人もいて、「グランドピアノを弾ける機会がないので嬉しい、上手な方の演奏を聴くと頑張ろうと思える」とピアノリレーの開催を楽しみにしている。定年を迎えた人や、趣



味でピアノを練習している人がピアノリレーを発表会の場にし、この日のために練習を重ねてくる。他にも、コンサートのための練習の場にする人がいるなど様々な目的に応じて自由に利用されている。

演奏者の中には、エレクトーンを持ち込み演奏する人もいる。ピアノ演奏者とのコラボや、スピーカーから出る音楽に合わせ演奏し、グランドピアノだけとはまた違う雰囲気になる。

会場を、こいのぼりや七夕飾り、クリスマスツリー、雛飾りなどで飾りつけをし、スクリーンに季節ごとの映像を流している。演奏者の中には、それらの飾りつけを楽しみにしている人もいる。準備に時間がかかることと、9時からの参加者も少なかったことから、Xmas ピアノリレーからは開始時間を10時にしたが、特に支障もなく、むしろ落ち着いて演奏のスタートを切れるようになった。

今年も、ピアノが好きな人が誰でも参加でき、身近な文化に触れることができるピアノリレーになった。



<課題>

講座の認知度をあげるための宣伝方法の工夫。
気軽に参加しやすい工夫。

遊び隊（あそび隊・折り紙グループ）

<ねらい>

子ども達に遊びを伝えることを通して異世代交流を図る。

学校や施設、町会など、地域に出かける事業を支援する。

<状況・成果>

隊員 14 人（あそび隊 12 人・折り紙グループ 2 人）

貝塚市内を中心に小学校・幼稚園・保育園・こども園・子育てグループ・介護施設・障がい者施設・児童養護施設・公民館の講座事業などからの依頼で現地に出向き、子どもから高齢者まで幅広くおもちゃ作りや昔あそびを通して交流している。また、月に 1 度、中央公民館で定例会を設けスケジュールの調整、おもちゃ製作の勉強会、講座準備、材料作りなどをおこなっている。また、隊員同士で最近の出来事を話し合い情報交換し交流をしている。

今年も、町会や夏休み期間中の学童保育からの派遣依頼が多く活動回数も増えている。暑さで体調不良にならないよう、より一層気を配らなければいけない。

今年度の活動（計 回）	
幼・保・こども園・小学校	16 回
公民館講座・グループ	13 回
施設・他市	5 回
地域・町会ほか	7 回

年々、隊員の高齢化が進んでいて、活動できる隊員がいなくなったことから 6 月で折り紙グループが解散した。これにより「遊び隊」という総称がなくなり「あそび隊」として活動することになった。卒業する隊員もあり新たな隊員の獲得が継続しての課題となっている。今年度は隊員募集に向けた講座として浜手地区公民館（以下、浜手）の高齢者対象の講座や高齢介護課との共催講座「シニアあそび大会」をおこなった。シルバーライフでは、サイコロルービックや風車などを作った。活動には興味をもってもらえたが隊員獲得にはつながらなかった。浜手で活動している隊員から個別で声掛けは続けていく予定である。シニアあそび大会では受講者が 5 人と少なく、

経験年数の浅い隊員も回数を重ね慣れてきており、講座の企画や準備を進んで分担するなど、積極的に関わっている。これまで、隊長が活動の依頼先とのやり取りや打ち合わせなどをほぼ 1 人でおこなっているため、負担が大きかったが、活動の報告作成を隊員たちで分けるなど分担した。隊員が減少している中で、依頼の件数は変わらず増えているため、人数が少なくても活動できる簡単なおもちゃを作るなどの工夫が必要である。

<課題>

新たなあそび隊員の獲得に向けた広報活動。

今後のあそび隊を担う後継者の育成。

遊び隊の歴史・・・遊び隊は「あそび隊」と「折り紙グループ」をあわせた総称。あそび隊は「つるかめ大学遊び隊」と公民館講座の「あそびボランティア養成講座」終了メンバーを中心に平成 20 年に発足。折り紙グループは平成 9 年につるかめ折り紙として結成し、平成 22 年中央公民館クラブ協議会に加入。その後あそび隊と共に活動していく中で平成 24 年に一緒に活動することとなり、その際に全体の総称を「遊び隊」とした。折り紙グループは、誰でも申込みなしで参加できる「オープン折り紙」事業を毎月第 3 土曜日に実施していたが、令和 6 年 6 月解散。令和 6 年 7 月より「遊び隊」から「あそび隊」に総称が変わった。



保育ボランティア

<ねらい>

子育て中の親の学習機会を保障する。

子どもにとっても安全・安心でより良い保育をめざす。

<状況・成果>

定期登録 11 人 不定期登録 3 人

おや子教室 12 人 公民館大会 4 人

今年度のおや子教室は、保育の子どもが 6 人と少なくボランティアは少し寂しさを感じていた。

準備会では、職員とボランティアで保育をするにあたり、不安なことを話し合い意見をすり合わせ、子どもの年齢などに合わせた開講式のプログラムを考えた。保護者用の保育についてのリーフレットも修正し、お母さんたちがより安心して子どもを預けられる体制を考えた。今年も、おや子教室の保育時間が 1 時間半と短かったため、おやつをなくしたが、子どもの年齢に応じ来年からはコロナ前の 2 時間に戻し、復活することも検討する。

講座ははじまり、1 回目は天気も良く暖かかったので外へ散歩に行き、芝生の上でかけっこをしたり、電車ごっこをしたりボランティアも一緒に楽しんだ。まだ歩けない 1 歳未満の乳児もいたが、ボランティアが抱っこし楽しそうに笑ったり、気持ちよさそうに寝ている子もいた。保育室では、外で砂遊びや三輪車、室内で滑り台やおままごと、ブロック、プラレールなど子どもたちが自由に楽しく遊べるように見守った。

おや子教室の中盤で、ボランティアと担当職員でお弁当を食べながら交流会をおこなった。保育のことだけでなく、自身の子育てや家族の相談、仕事の話などボランティア同士の仲間のつながりが感じられ、この場がボランティアにとって仲間づくりの場であり充実し楽しめることを改めて実感した。

修了式では、お母さんも交えてみんなで保育の様子ビデオを見た。毎週おや子教室の日は、家を出る前から泣いて行きたがらず、保育室に着いてもお母さんと離れたがらない子どもがボランティアと楽しそうに遊んでいる姿や、お母さんと離れたことがなくずっと泣いていると思っていたがボランティアに抱っこされ楽しそうにしている様子が見られてお母さんたちは自分の知らなかった子どもたちの姿を見ることができ、子どもの成長を感じうれしそうだった。

今年も定期のボランティアだけでは人数が不足安全な保育体制が取れないと感じたため、不定期の人にも保育に入ってもらったが、登録人数は減少している。

<課題>

新たなボランティアの確保。



日本語会話よみかき教室ボランティア

<ねらい>

日本語会話や読み書きが困難な人たちに学習支援をする。

受講者の生活面での相談事に対して、サポートできるボランティアを養成する。

<状況・成果>

4/3～3/26 ボランティア 17 人 受講者 30 人

3 館ボランティア内訳（中央公民館 5 人 浜手地区公民館 2 人 山手地区公民館 8 人）

日本語会話よみかき教室ボランティア（以下、ボランティア）は中央公民館（以下、中央）、浜手地区公民館（以下、浜手）、山手地区公民館（以下、山手）の 3 館で活動しており、日本語検定取得やビジネス用語、業務に必要な日本語等様々な受講者のニーズに合わせた対応をしている。



今年度は、かいづか国際交流協会（KAIFA）で行われた教室見学会に参加し、他の教室での取り組みや受講者へのかかわり方について情報交換したことがとても参考になった。



教室では日本語の学習だけでなく、受講者とボランティアで食事を交えた交流会を行い、たこ焼きや受講者の母国の料理を作り交流を深めた。

今年度は、市町村識字・日本語学習泉南ブロック交流会を中央で開催した。中央の受講者を講師としベトナム料理作りを主に、自国の紹介や、他市との情報交換も行った。ボランティアは、講師役の受講者が言葉に詰まったときにフォローをしたり、発表の相談をう

けるなど受講者を後押しする支援を行った。交流会を行うための試作、買い出し、原稿の読み合わせも受講者と協力しながらすすめた。他市の教室に比べ、貝塚市は、生活に密着した勉強方法で受講者の心のよりどころになっていると賞賛された。ボランティアは日々、受講者が日本での生活が過ごしやすいものになるためのサポートを教室以外でも行い、受講者との強い信頼関係を築いている。ゴミ出しや自動車免許の更新、子どもの学校への書類の提出などのサポートも行った。受講者にとって分からないことがあればここへ来ると相談に乗ってもらえるという場所になっていることが、ボランティアにとってはとても嬉しいことのようにだ。

昨今、夜間の教室の需要が増え、夜間に対応できるボランティアの不足が課題となっている。

<課題>

今後の講座を担うボランティアの増員及び育成。

夜間にも対応できるボランティアの確保。

ふれあい料理ボランティア

<ねらい>

受講者が安心して活動できるようにボランティアのスキルアップを支援する。

交流を通して障がい者への理解を深める。

受講者が主体となる関わりを心がける。

<状況・成果>

4/26～3/22 毎月第4金曜日 10時半～12時半

ふれあい料理ボランティア 15人

今年度は、受講者 23 人を受け入れ総勢 38 人でふれあい料理が始まり、受講者が多いためボランティアが数人休むと講座が回らない状態になっている。そのため、何度も話し合いの場を持ち来年度ボランティアを募集することになった。その一方で、コロナ禍に入り休んでいたボランティアが 2 人復帰し、久しぶりに顔を合わせ楽しそうにしていた。今後も余裕のある体制で安全に講座を運営できるように考えていかなければならない。

コロナ禍も落ち着き、規制がなくなったので、久しぶりにボランティア研修会をおこない、「蓬莱」の本店で豚まん焼売の手作り体験をし、工程や簡単に作れるコツを学んだ。

11 月には、山手地区公民館と浜手地区公民館の料理ボランティアで三館合同研修会を行ない、SDGs をテーマにみつろうラップを作った。最後に各館の 1 年間のレシピを交換し合い、講座の特徴などを報告し、改めて自分たちが所属しているふれあい料理講座の意義、受講者への料理の教え方や声掛けの方法、ボランティアの体制などを考え直す良い機会となった。

今年もクリスマス交流会を行ない、受講者が部屋の飾りつけを担当し、ボランティアはクリスマス料理を振舞った。

今年度も和やかな雰囲気の中で講座を終えることができた。

<課題>

ふれあい料理講座のボランティアの楽しさを多くの人に知らせ、新規ボランティアを増やす。

障がい者理解につながる学びの場をもつ。



第68回中央公民館まつり

<ねらい>

中央公民館と、公民館を拠点に活動する団体とが協働して企画、運営することで、強固な関係構築をはかる。

公民館で活動する団体、グループの交流を図り、公民館活動の活性化につなげる。

公民館活動を広く地域の人々に知ってもらうことで、地域の課題解決につなげる。

<状況・成果>

5/19 日曜日 バザー 参加者 約 250 人

5/25 土曜日 5/26 日曜日 参加者 6,000 人（土曜日 2,300 人、日曜日 3,700 人）

参加団体 29 団体

第 68 回中央公民館まつり（以下、まつり）は、前年（令和 5 年）の 12 月に準備会を開催し、スタートを切った。

準備会では、昨年同様、展示・舞台・野外舞台・模擬店を行うことを確認したほか、昨年からの協議事項であった協賛金については、今回は募集せず、バザーを開催することで合意した。

年も明けた 1 月 16 日には第 1 回実行委員会を開催し、5 月のまつりに向けて本格的にスタートすることとなった。まつりのテーマは事前に公募し、実行委員会で投票を行った結果、「未来につなぐ公民館まつり」に決定した。

近年はコロナ禍で学校園への周知を控えていたが、役員会で子どもの参加を促すために学校園に配布してほしいという声があったことから、各委員会にも諮って学校園にチラシを配布することとした。チラシは表裏カラー印刷で、イラストを多用し、文字にルビを振るなど子どもにも分かりやすく工夫した。

まつり当日はチラシの効果もあってか、子どもたちの姿も多くみられ、中にはチラシを持った子どもが楽しそうに会場に訪れる姿もあった。模擬店委員会では、まつり参加の母親の言葉として「夜店などに行けば 1500 円出さないといけませんが、まつりだと 1000 円以内で 1 日遊べる。これには子どもも満足して、本当に良かった」とのコメントが紹介されるなど、あらためて学校園にチラシを配布したことの効果を実感することとなった。そのほか、今年もまつり PR 映像を作成し、市の YouTube チャンネルやロビーで映像を流し、宣伝活動を行った。



バザーの様子

まつり本番に先がけ、1 週間前の 5 月 19 日にバザーを開催した。バザー品は昨年同様新品のみを対象としたが、子ども用品のみ中古品（Used）可とし、保育室で販売し、手作り品も受付をすることとした。

バザー品の回収は 5 月 7 日～13 日の時間も限定して行った。その結果、バザー品約 1800 点、子ども用品約 2000 点が集まった。

当日は、子ども用品会場に約 100 人、2 階中央公民館会場に約 150 人の参加者が訪れ、賑やかな雰囲気に包まれた。

まつり本番は天気にも恵まれ賑わった。オープニングはつげさんと大人の HIPHOP チェケラッシュによる「つげサンバ」で、子どもたちも一緒に踊るなど、賑やかで楽しいオープニングとなった。



オープニング
つげさんもいっしょ！！

舞台は2日間、中ホールにて23団体が多彩な演目を披露した。26日の舞台オープニングは、「よっちょれ津田」によるよさこい踊りで花を添えた。

ホール前にはテレビを設置し、ホール内の様子を見てもらい、参加者に興味を持ってもらえるよう工夫した。また、来観者に出演団体に向けてのひとことメッセージを記入してもらい、ロビーに貼り出したところ好評で、多くのコメントが寄せられた。

野外舞台は2日目の26日に開催した。今年は9団体が出演し、今年は高校生バンドも3団体出演した。



しゃべり場★公民館ブースと
模擬店

昨年、「1日目に野外舞台が無かったので、音が無くて寂しかった」との声があったことから、今年は「しゃべり場★公民館」の協力を得て、同じ野外スペースで音楽を流したり、まつり参加団体にインタビューをして紹介をしたりするブースを設置した。紹介してもらった団体は、「このおかげで他の参加者から声をかけてもらった」と、新たなつながり、交流が生まれていた。

模擬店は20団体が出店。そのうち2日目のみ1店舗が屋内で喫茶を出店した。今年は両日とも暑かったので、参加者も休憩を兼ねて多く来店し、昼前には食べ物がすべて売り切れるほど盛況だった。

ただ、今年は天気が良かったものの、日中の気温は5月にも関わらず真夏のように、暑さ対策と、熱中症など救護対策が次年度にむけての課題となった。

実行委員会や役員会の反省会では、「つながりの大事さを改めて認識した」という声から「まつりが無くなると、復活は難しい。いろん

なクラブ・団体が一緒に楽しめる場、集まって話せる場が必要」といった声も聞かれた。人と人がつながるための場を継続する必要性を感じたまつりであった。

<課題>

実行委員会、役員会の開催体制等各団体参加者への各委員会決定事項共有の徹底。

今年の反省点を踏まえての会場レイアウト、駐車場動線の検討、動員の見える化、関係各課との調整。

まつり運営費の見直し（協賛金、バザー開催についての検討）。

展示は12クラブが出展、絵画や写真、書、陶芸、彫刻、絵手紙などの作品を小ホール及び中央公民館ロビー壁面に展示した。また、中ホールのロビーには、ろうの花を展示した。

中央公民館内ではコスモ写真クラブの映像展示や昨年好評だった即売会を開催し、各々のクラブが制作した作品を販売した。



舞台発表と作品展示

ロビー活用

<ねらい>

クラブや団体の発表の場（展示）、情報収集の場、コミュニケーションを図る場、憩の場等とし、市民がいつでも誰でも気軽に利用できるように整備する。

<状況・成果>

○居場所・コミュニケーションの場として

ロビーは適宜利用されており、昼間は主に雑談、ミーティング、休憩、昼食、クラブ前の自主練習などの場として、幼児から高齢者まで幅広い年齢層の人が利用している。

部屋が満室の場合はロビーで会議をしていることもある。

夜間には高校生が学習のためにやってくる。コスモシアターの3階にある青少年教育課は今春よりチューター制度で学生の自主学習を支援する取り組みを始め多くの学生が3階へと足を運ぶが、公民館のロビーを自習の場として選ぶ学生や社会人もいる。

昨年度より、かいづかプラスチックごみゼロ宣言に基づき、ペットボトルごみ削減の取り組みの一環として給水機が設置され、1年を通して多くの利用があり定着した様子である。

○展示場所として

クラブや市民が自由に展示できる場として通路壁面やガラスケースを開放しており、多種多様な作品が年間を通じて展示されていた。

○情報収集の場として

様々な情報を提供する場として、公民館主催または共催講座事業のチラシ、市の広報や市内外の各種団体からのチラシを市民が自由に手に取れるよう配架している。

また、クラブ協議会のお知らせなど、周知の場としても活用されている。男女共同参画をはじめとする人権啓発コーナーが設置されており、各団体や子育てサークルの手作りのポスターもあるなど、公民館で多くの活動紹介がなされている。

<課題>

ロビー展示を市民だれもが利用できることのさらなる周知。

ロビー展示を利用者や市民に気軽にみてもらえる工夫。

団体名(内容)	期間
市民展示（陶芸）	4/9～4/19
遊び隊 - 貝塚病院展示 -	4/5～4/19
どろんこ（陶芸）	6/6～6/20
ろうの花 - 貝塚病院展示 -	6/25～7/9
月曜絵画クラブ	7/1～7/21
にっこり展（障害者施設展示）	8/31～9/15
貝塚美術協会展	9/14～9/15
ろうの花クラブ	9/26～10/7
木曜書道クラブ	10/4～10/15
市民展示（七人会の絵画展）	11/19～11/30
光絵画（浜手公）	12/3～12/16
月曜絵画 - 貝塚病院展示 -	12/2～12/16
貝塚美術協会小作品展	1/12～1/25
市民展示 小物づくり	1/27～2/4
水墨画クラブ	2/1～2/14
花を楽しむ会（山手公）	2/7～2/13
月曜絵画クラブ	2/17～3/10



地域出前講座

<ねらい>

話題提供を行い、長生会や町会の活性化を図る。

地域の人に公民館を知ってもらう機会。

<状況・成果>

コロナ後、地域からの依頼が増え今年度も6回の出前講座を行った。

老人会の会長や世話人は、毎月活動をしなないといけないとの意気込みから内容に困り公民館に相談にやってくる。相談にくるのは公民館と馴染みの深い人が多く、会員の減少を憂える声や担い手不足からいつまでたっても役が交代できないなどそれぞれの課題が同時に語られる。

今夏は歴史的な猛暑だったため家から出ない人が多く、催しをしても人が集まりにくいと、行く先々で世話人たちが話をしていた。また、夏場は舞台上で熱演を繰り返す演者にも熱中症の危険があり、公演の途中で休憩を挟むなど演者にとっても厳しい暑さの出前講座だった。夏場のプログラムの持ち方や、会場の空調の効き具合なども事前に調べておく方がベストである。

どの地域に行っても、笑って元気になったと嬉しそうに話してくれる人たちが多く、その笑顔に世話人たちもほっとした表情を見せていた。

今後も、特技登録者制度から多くの人に出前講座に関わってもらえるよう声をかけ、地域活性化への一助として継続していきたい。

	開催場所	講 師	参加数
6/11	津田北町（永寿会）	奥部真二（まちのすぐれもの）	21 人
7/25	堀之町老人会	千里亭だし吉（落語ほか）	18 人
7/28	窪田シャルマンフジ長生会	天神亭美笑（落語）	15 人
8/24	旭住宅老人会	天神亭美笑（落語）	31 人
10/26	馬場町老人会	奥部真二（まちのすぐれもの）	34 人
3/23	窪田シャルマンフジ長生会	満腹亭楊枝（落語ほか）	19 人



<課題>

市内町会へ出前講座の周知を行う。

地域に出向く機会を増やす。

特技登録者制度（まちのすぐれもの）の活用を増やす。

移動公民館「健康サロン」

<ねらい>

地域の町会館（自治会館）などを利用して「健康」をキーワードに地域コミュニティの活性化と絆を深める機会とする。

「公民館を地域へ」の足掛かり、公民館を知ってもらう機会とする。

公民館が地域を知るきっかけとする。

<状況・成果>

4月～3月（11回） 延べ162人

13年目を迎える「健康サロン」はコスモス市民講座のプログラム「移動公民館～公民館があなたの町へ出かけます～」を利用し、依頼のあった町会や団体へ出向いて軽体操と茶話会をしている。

コロナがインフルエンザと同様に扱われるようになり、日々のくらしはコロナ前に戻ったように見えるが、コロナ以前のような繋がりが修復できず「健康サロンを利用してまずは人集めをしよう」と活用してくれる町会もある。

訪問先ではその町会の良さや課題が見えたり、公民館の宣伝が直接できるメリットがある。

例えば、町会役員がほぼ変わらない町では、顔と名前や家まで把握していることで「〇〇さん、まだ来てないな、家まで声かけにいつてくるわ」と誘いにでていく役員や、携帯電話で声かけする顔の見える関係ができている反面で、後継者不足を嘆く役員の姿も見られる。「どうしたら（会館まで）出てきてくれるのか。何に興味あるのか」とプログラムに悩む役員の姿や、「ずっと役員を担い、代わってもらいたい、誰も代わってくれない」と不満を述べる役員もいる。

公民館クラブの地域貢献である「ほかでもがんばっているよ」（クラブが現地に出向き、音楽や踊りを披露する）や、「まちのすぐれもの」の活用なども紹介し、町会・団体の運営の手助けになるように働きかけた。

<課題>

地域の人たちが自分たちの活動を継続するための支援。

「地域の居場所づくり」に向けた働きかけ。



日	場所
4/18	畠中ロコモフレンズ
6/4	畠中町長生会
7/26	東山いきいきクラブ
8/11	窪田シャルマンフジ長生会
10/5	アジュール二色の浜 いきいきあゆみの会
10/5	畠中町長生会
10/17	畠中ロコモフレンズ
12/1	窪田シャルマンフジ長生会
1/21	津田南町福寿会
1/25	二色の浜旭住宅
2/9	窪田シャルマンフジ長生会

親子で楽しむ 1DAY イベント かいつか家族の日関連事業

<ねらい>

親子で楽しみ、親子のつながりを深める。

公民館を知る機会。

<状況・成果>

12/15 日曜日 10時～12時 参加者 90人

共催：音楽グループかたつむり・折り紙部 人形劇あひる よみきかせグループマザーグース

小さな子どもと保護者が音楽や人形劇を楽しみ、子どもがぐずったら絵本の部屋でくつろぎ、折り紙でサンタを作って最後にクリスマスソングを歌うという提案が、音楽グループかたつむりの代表（以降、代表）からあった。企画を通して親子のふれあいの場がもて、公民館を知ってもらう機会にもなるということで共催事業として取組んだ。

初めての試みのため、広報かいつかやホームページなどのほか、市内小学校の1、2年生と公立幼稚園、市内こども園にちらしを配布した。

ちらしを配布した後に申込が急増し100人を超える申込があった。参加者の安全を考慮し、110人を受付けたところで、その後の申込受付は断ったが当日まで申込の電話があるという状況だった。

当日は、体調不良などで参加者は減ったものの、90人の親子が集った。父親の参加も多く、子どもを膝の上に乘せ音楽に合わせて体を揺らしたり、絵本の部屋で読み聞かせたり、折り紙を折るなど子どもと楽しそうに関わる姿が見られた。

子どもたちが退屈して動きだすと、絵本の部屋や折り紙の部屋に移動するなど、メインの会場以外にも居場所を作っていたため、親は周りに気兼ねすることなくイベントを楽しむことができたようだ。偶然知り合いと出会い嬉しそうに会話を交わす母親の姿もあった。最後には子どもたちも乗ってきて、サンタの折り紙を手に持ちクリスマスの歌を歌って終了した。

ゆったりと子どもたちと過ごせたこともあり、このような機会をまた作ってほしいと会場からの声が多くあがり、代表は来年も企画したいとの意向を示している。準備や片付けの人員など、やってみてわかることも多く次年度への課題としたい。

<課題>

申込を断るほどだったので2部制にするなど、多くの子どもたちを受け入れられる工夫。

主催者と打ち合わせを入念にし、準備や片付けの段取りをきちんと組む。



【参考】ほかでもがんばっているよ 中央公民館クラブ協議会や団体の地域での活動

No.	月 日	クラブ名	会 場	備 考 (感想など)
1	4/14	遊び隊	三ヶ山学園	かざぐるまとサイコロルービックを希望され用意した。少し難しそうだったが喜んでいた。
2	4/28	貝塚ハーモニカクラブ	湊町会館	ハーモニカ演奏に合わせて歌ってくださったので盛り上がり良かった。
3	5/4	遊び隊	プレーパーク春の巻	常連の子たちが、慣れた手つきで遊んでいた。子どもたちで教え合いをしている姿も見れた。
4	5/5	遊び隊	二色の浜公園	大阪郊外の親子が沢山いた。充実した1日を過ごせた。
5	5/18	オカリナふぁみりあ	名越町会館	みんなで楽しくオカリナを演奏した。
6	5/23	遊び隊	東山こども園	かざぐるまとブンブンゴマで遊んだ。
7	6/9	コスモ写真クラブ	北生駒 長弓寺	あじさいやお寺の写真を撮りにいった。
8	6/10	ハワイアンフラ	介護施設 庵	利用者さんに手持ちのレイをつけていただきフラを楽しんでもらった。
9	6/20	遊び隊	浜手地区公民館 シルバーライフ	かざぐるまとサイコロルービックを作った。脳トレになり楽しそうだった。
10	6/23	遊び隊	貝塚ファミリー劇場 例会	豆つかみやたらい被り剣道をして遊んだ。
11	6/25	ろうの花	貝塚市民病院	廊下が明るくなったと喜んでいただけた。
12	6/27	貝塚ハーモニカクラブ	なの花デイサービス	春の歌メドレーやふるさとなどあわせて1時間の枠で演奏した。喜んでもらえてよかった。
13	7/20	あそび隊	中央公民館 夏の子ども講座	牛乳パックで「トコトコロボ」をつくった。
14	7/25	あそび隊	中央小学校 仲良しホーム	牛乳パックゴマとサイコロルービックを作って遊んだ。
15	7/26	あそび隊	永寿小学校 仲良しホーム	紙コップを使ったコブコブターを作った。遊びコーナーでは、前つかみが人気だった。
16	7/29	あそび隊	ハート交流館 E メイツ	遊び道具を持っていきみんなで遊んだ。
17	7/30	あそび隊	青少年センター のびのび教室	普段やらないコブコブターがとても人気だった。完成すると、友達と競争し遊んでいた。
18	8/2	あそび隊	東山小学校	子ども達は牛乳パックゴマ作りに苦戦していたが、楽しそうに遊んでいた。
19	8/5	あそび隊	ハート交流館 E メイツ	2回目は、かざぐるまと円盤を作った。
20	8/5	月曜絵画クラブ	浜手地区公民館 ロビー展示	展示作品13枚、小石アート約50個活動を知ってもらえるいい機会になった。
21	8/10	あそび隊	中央公民館 夏の子ども講座	世界に一つだけのオリジナル風車を作った。
22	8/19	あそび隊	三ヶ山学園	タオル人形を作った。個性あふれる人形ができた。
23	8/20	あそび隊	わとわ	牛乳パックペンギンを作った。
24	8/21	あそび隊	二色学園	牛乳パックゴマを作った。
25	9/7	あそび隊	東山グリーンパーク	ブンブンゴマ、かざぐるま、ストロートンボを作った。
26	9/12	貝塚ハーモニカクラブ	南泉丘福祉委員会	夏の歌メドレーなど明るい曲を演奏し楽しんでいた。
27	9/22	あそび隊	ほっこりの里祭り	かざぐるまやブンブンゴマなどを作り楽しんだ。

No.	月日	クラブ名	会 場	備 考（感想など）
28	9/28	あそび隊	北校まつり	ブンブンゴマ、かざぐるま、ストロートンボを作
29	10/8	あそび隊	山手地区公民館まつり	風が強くテントを張れなかったが、晴天貝塚ハーモニカクラブの下たくさん子どもたちが遊びに来
30	10/19	人形劇あひる	三ヶ山学園	約 20 人程度の子どもたちが楽しそうに見てくれました。
31	10/26	オカリナふぁみりあ	里山交流館	手作りの竹明かりの中で気持ちよく演奏できました。
32	11/3	箏曲クラブ	貝塚福祉センター	小学生と高校生が 2 曲ずつ演奏しました。会場が華やいだと思います。
33	11/9	あそび隊	プレーパーク秋の巻	おなじみの子どもたちが集まり、みんな笑顔で遊んでいました。
34	11/9	ハワイアンフラ	水間会館	「華やかでもっと踊りを見たい」とおっしゃっていただき私たちも楽しめました。
35	11/11	あそび隊	中央公民館 赤ちゃんルーム	4 組のお母さんたちと CD こまと組み立て人形を作りました。皆さんとても上手で感心しました。
36	11/12	ろうの花	浜手地区公民館	作品を展示して、「ろうの花」を広めることができ良かった。
37	11/14	貝塚ハーモニカクラ	なの花デイサービス	涙を流されている方もおられました。2 回目の訪問を喜んでくださいました。
38	11/15	マジッククラブ	せんごくの里	知的障がい者対象のため理解が容易な演目を厳選し、楽しんでいただいた。
39	11/16	マジッククラブ	東山小学校	みんなで輪ゴムのマジックをし、大盛り上がりでした。
40	11/23	マジッククラブ	桜台保育所	親子・保育士含め、40 人でした。 子供向けのマジックを披露し大変喜んでもらえました。
41	12/2～12/16	月曜絵画クラブ	貝塚市民病院	作品展示でロビーが明るく華やかになりました。
42	12/4	マジッククラブ	木積長生会	マジックを披露、大きな笑いと拍手をもらいました。
43	12/7	あそび隊	いぶき作業所	前回のブンブンゴマが好評だったので、今回も作りました。かざぐるまも作りとても喜んでいました。
44	12/8	室内楽クラブ	カトリック貝塚教会	70 名を超えるお客様にご来場いただきました。 嬉しい感想をたくさんいただきました。
45	12/8	人形劇あひる	岸和田福祉センター	たくさん親子連れが参加し、子どもたちもよく見て楽しんでくれていました。
46	12/10	あそび隊	ひさほ保育園	CD こま、猿の木登り、タンクを作りました。夢中になって遊んでいました。
47	12/15	人形劇あひる	中央公民館	たくさん親子連れ参加のイベントで音楽中心のとても楽しい雰囲気でした。
48	12/19	あそび隊	天使幼稚園	みんな楽しく盛り上がりました。 最後は、ハイタッチをしお別れをしました。
49	12/20	マジッククラブ	加神ライフコート	皆さんの反応が非常によかったです。
50	12/23	貝塚 ハーモニカクラブ	そらまめデイサービス	楽しんで手拍子や歌ってくださる姿が印象的でした。また来てくださいという言葉もいただきました。
51	12/24	あそび隊	北小学校	完成した作品を「見て見て」と友達同士で自慢し合い喜んでいた。
52	1/7	あそび隊	浜手地区公民館	例年に比べて子どもたちの参加者が少なく、丁寧に説明し一緒に遊ぶことができた。
53	1/19	あそび隊	貝塚市役所 1 階ロビー いこいこ貝塚	絶え間なく子どもたちが遊びに来てくれやりがいがあり、嬉しい活動だった。
54	1/23	あそび隊	西幼稚園	園児たちからも、全部楽しかったと言ってもらえてよかった。

No.	月日	クラブ名	会 場	備 考（感想など）
55	1/23	人形劇あひる	中央幼稚園	子どもたちも手をあげたり一緒に声を出し、みんなで楽しみました。
56	1/24	あそび隊	北幼稚園	時間の制限がなかったっぷり遊べたため、とても充実した。
57	1/31	あそび隊	中央公民館 シニアあそび大会	今年の干支であるヘビをつくった。難しかったが、楽しそうに制作をしていた。
58	2/14	あそび隊	中央公民館 シニアあそび大会	コマ回し、かざぐるま、サルの木登り、ブンブンゴマ、隊員手作りの UFO キャッチャーで遊んだ。
59	2/20	あそび隊	カトリック幼稚園	はじめて訪問した園で、緊張したが楽しめた。
60	2/21	あそび隊	海塚保育所	子どもたちは、初めてする遊びに興味津々で目を輝かし遊んでいた。
61	2/27	あそび隊	おおぞらこども園	隊員のマジックにとっても喜んでいた。
62	3/6	あそび隊	ピアニ修道教寺	こどもたちはコマ回しがとても上手だった。
63	3/23	あそび隊	縁ジョイ会 縁日	手作りのクレーンゲームが長蛇の列ができるほど人気だった。
64	3/24	月曜絵画クラブ	どんまい	自分で作った凧を、どんまい公園で揚げた。
65	3/29	あそび隊	プレーパーク	たくさんの子どもたちが遊びにきた。

※遊び隊は 6 月で折り紙グループが解散したため、7 月より「遊び隊」から「あそび隊」に総称が変わった。



中央公民館クラブ協議会

<ねらい>

クラブ協議会（以下、クラブ協）が文化・学習活動を通して豊かな市民文化の基盤を形成する。
クラブ協の円滑な運営へのサポートをおこなう。

会員の相互交流と理解を図るために事業・研修をおこなう。

<状況・成果>

クラブ数 42 クラブ員数 399 人

新役員の承認を得て、4月定期総会から順調に通常のクラブ協活動がすすめられた。

クラブ活動についても「公民館まつり」をはじめ、クラブ独自の発表会や展示会、また公民館を飛び出して地域で活動をする「ほかでもがんばっているよ」などすっかりコロナ前の活発な状態に戻った。何か始めたいと、毎月のように電話でクラブの問い合わせや、直接公民館に来る人があり、公民館クラブへの関心の高さを感じた。クラブ案内は増し刷りをして対応し、12月には今年度配布用の「どらせな※」はなくなっていた。しかし、クラブ体験講座の企画は例年に比べ少なかった。

クラブ協役員は定例会が2か月に1回となったあとも、毎月1回会議をし、協議会活動が滞りなく進められるように話し合いを重ねた。役員は2年目と1年目がペアとなり、仕事を引き継ぎながら、役員の担い手を育てている。役員の役割を全く知らない人に「自分も知らなかった。けれど一緒にするから大丈夫」と声をかけ、1年後には新人役員を迎える役員が育っている。

公民館クラブでない自主グループが複数あり、今年度クラブ協への加入を勧めた。いくつかのグループは加入について話し合っているとのことである。また、講座から派生したグループは1月よりクラブ協に加入した。

レクリエーション部会は、昨年4年ぶりにバスツアーを開催し、交流を深めた参加者から「来年もぜひバスツアーを」という声があり、コロナで活動できず資金が繰り越されていたこともあり、話し合いの結果、2年連続でバスツアーを開催し、場所は奈良方面に行った。当日は天候にも恵まれ親睦を深める良い機会となった。

地域担当研修部会は、例年開催している障害福祉施設の展示「にっこり展」を9月に開催したが、5月の会議で「にっこり展」を行う意味や経過について質問が上がった。ちょうど担当職員も代わったばかりでクラブ員と一緒に、もう一度考え直すよい機会となった。「にっこり展」には1施設が新しく参加することになった。

広報部会では、協議会ニュース「泉のほとり」を今年度も2回の発行とした。

また、活動記録「どらせな 61号」の発行もおこなった。

各担当職員は各部会の役員・部長に寄り添いながらアドバイスや作業を支援した。

※クラブ協議会が自分たちの活動のまとめや各クラブ紹介を冊子にまとめたもの。年1回発行。

<課題>

クラブ協議会活動の円滑化と活性化を図る。

クラブ協議会役員・委員の役割を明確化する。



貝塚学習グループ連絡会

<ねらい>

貝塚学習グループ連絡会（以下、連絡会）全体の活性化を図る。

各学習グループ（以下、グループ）が学んでいることをサポートする。

<状況・成果>

連絡会は公民館で活動するグループが共に学び、個々のグループの学習進捗状況を報告し情報交換を行っている。現在は、「あこ〜る♪」「第3土曜の会」の2グループで活動している。

「第3土曜の会」は福祉や介護などの課題について学習しており、毎回担当を決めて学んだことなどの記録を残している。「あこ〜る♪」は学習活動だけでなく、リレーフォーライフや、公民館まつりなど、地域とのつながりに関する自主的な活動も行っている。今年度は各グループの活動に興味を持った人が、見学の後に両グループに新たに参加することになった。

連絡会の歴史は古い。前身である「それいゆ」から発展し、1992年に連絡会を結成した後は一貫して、公民館の学習活動を支えてきた。結成時、10以上あった学習グループも高齢化などで次々と連絡会を離れてしまい、近年は連絡会の活性化が喫緊の課題となっている。

一昨年から、交流と情報交換を兼ねて、2グループは集まって話し合う場を設定している。一度職員が会議に入ったとき、「このまま高齢化で連絡会がなくなっても仕方がない」、「時代も変化しており、必要なければ活動をやめても良い」といった発言が目立った。

そのようななか、メンバー数人が、当時連絡会結成に深く関わった元職員の村田和子氏の「公民館活動における女性史」の発表を聞く機会があり、連絡会の軌跡や自身の活動の原点につながる話に思いを新たにした部分もあったようだ。また、第3土曜の会では、しゃべり場★公民館との交流の中で、自分たちの会の歴史を語り、改めて活動を振り返る機会もあった。

3月には、職員の依頼で、公民館の講座「居場所をつくる」にも協力し、講座の準備や看板等の作成、宣伝活動、当日の受付などにも協力してくれた。講座は2回連続講座で、各回終了後に受講者に対し連絡会へつなぐために学習グループの組織化を勧め、連絡会のメンバーも自身の活動についての紹介などを行った。2回目の講座でのグループワークでは、メンバーが連絡会のアピールをしたところ、興味を示して活動の見学も希望してくれる人もいた。

連絡会に所属する団体は、公民館の講座で知り合った人たちが職員の強い勧めで、1度の講座ではなく、継続的な学びにつなげていくために学習グループを結成していった。公民館では、単発の学習講座だけではなく、定期的な学習講座につなげ、そこで学んだ人たちが新たにグループを立ち上げていくきっかけにできないか模索している。

<課題>

各グループの連携強化と活性化に向けての具体的な方法の検討。

グループ増加を視野に入れた広報や周知方法の工夫。



「あこ〜る♪」…1989年「公民館保育を考える会」として発足。中央公民館が現在のコスモスシアターに移転する際保育室の内容について提言した。2000年から現在の名称。

「第3土曜の会」…1985年に「働く女性の会」として発足。働く環境の問題から関連して女性史、女性問題について学習してきた。20〜30年も活動しているメンバーもいる。現在は介護の問題や時事的な問題をメンバー持ち回りで担当し学習している。2020年より連絡会の活動に興味を持った男性1人が加入した。

貝塚ファミリー劇場

<ねらい>

人と人のつながりが深まるような取り組みを支援する。

創造力・想像力・コミュニケーション力を育み、自主性を大切にする活動を支援する。

<状況・成果>

「こども市」は今年も庁舎前の市民広場で開催予定で打ち合わせや準備を行っていたが、当日雨天のため急遽中央公民館内で開催することとなった。雨天の場合の打ち合わせがあまりできていなかったため、当日準備に戸惑いもあったが各店舗の店長や周りの協力もあり 200 人と大勢のお客さんで賑わった。子どもたちは、自分たちで考えみんなで協力しながらお店を運営していく中で、最初は不安そうな顔を浮かべていたが徐々に緊張もほぐれ、「いらっしゃいませ」と大きな声であいさつをするようになり自信がついたようだった。



エンディングでは、貝塚ファミリー劇場（以下、ファミリー）のキャラクターである「ねぎぼうず」も出演するオリジナルストーリーの紙人形劇が披露され盛り上がった。

12 月には、ファミリーと中央公民館の共催講座「寄せ鍋寄席」を開催した。寄席というタイトルということもあり、なかなか一般の子どもの申し込みが集まらず、子育てネットワークの会や赤ちゃんルームなどでも呼びかけた結果、当日の一般参加者は 64 人だった。内容は、人形や下駄を使い子どもから高齢者までみんなが楽しめる公演だった。



ほかにも、ファミリーでは例会の開催や市民文化祭への参加など様々な活動を行い、子どもたちの自主性を大切にしてきた。今年度は、5 人の新規会員の加入があったが活動を継続していくためにはさらなる会員を獲得し、ファミリーが活躍できる場を増やしていきたい。

<課題>

新規会員の獲得につながる広報、取り組み。

子ども市の雨天運営方法。

【主な活動】

4/20	総会	56 人
4/21	こども市	200 人
5/26	中央公民館まつり	
6/23	第 141 例会「りさ&たつ 二人の紙芝居ショー」	会員 97 人
7/25	ファミリーひろば 市民講座「災害に備えてみんなで学ぼう」	19 人
8/8	善兵衛が観た未来プロジェクト「プラネタリウムと星のおはなし」	70 人
10/20	山手地区公民館まつり「惑星軌道モビール作り」	出展 一般 146 人 スタッフ 21 人
11/3	市民文化祭 善兵衛が観た未来プロジェクト 「惑星軌道モビール作り」	出展 一般 146 人 スタッフ 21 人
11/16	第 142 例会 南海沿線合同例会「らふいゆ れふいゆ」	会員 89 人
12/8	中央公民館共催 「寄せ鍋寄席」	一般 64 人 会員 73 人

貝塚子育てネットワークの会

<ねらい>

会の円滑な運営に対しての助言。大人が育つ学習の場と環境づくりを提供。

<状況・成果>

1988年に発足して以来、自主的な運営と活動で36年の歴史を紡いできた貝塚子育てネットワークの会（以下ネット）。今年度、ネットは乳幼児部会を中心に第2子、3子の出産ラッシュとなっており、公民館で妊婦や赤ちゃん連れの母親の姿を見かけることが多くなった。2023年度の国の合計特殊出生率は1.20となり全国的に出生数の減少は止まらないのに、なぜ公民館で子育てをすると子どもを産み育てたくなるのだろう。そのヒントがネットの活動にあるようだが、一時的な出産ラッシュでは追いつかないほど乳幼児サークルは会員の減少が止まらず、さくらんぼとどんぐりの2つのサークルが今年度合体した。若い親子の活動は元気いっぱい乳幼児部会の活力が今のネットを支えている。



子どもが3歳になれば子ども園や幼稚園にあずけて働きに出て乳幼児部会を卒業し園児部会へと移行する。会員数が多く充実した組織運営が成されそうだが、実際は会議への出席者数が少なく運営に苦慮しているのが園児部会の実情であり課題である。

小学生部会では、子育ての悩みが多岐にわたり学習課題を焦点化することが難しくなっている。親も子も忙しく日々の生活に余裕を見出せず、ネットの運営の担い手が決まらない状況を生み出している。

ネットの中ではベテランと呼ばれる中高生部会は、積み上げてきた子育ての経験を他部会に伝える機会を生かし切れていない。ネットの強みとされてきたタテのつながりが、コロナ以降弱まりつつあることを感じているメンバーも多い。

中高生の親から乳幼児の若い親まで、幅広い年齢層のタテのつながりがあること、集団子育ての醍醐味を実感する学習と実践、意見の相違や考えの違いを対話で解決する姿勢、これらを再確認しつつ未来に続く体制づくりへと葛藤をしている。

<課題>

各部会の縦横のつながりを強める。

個々の負担を軽減させる組織の在り方。

目的を確認しつつ楽しく持続可能な活動への知恵と工夫。

【主な取り組み】

・ネット研修会・部長会議（毎月）、代表者会議（不定期）・中央公民館まつり（参画）・公民館大会（参画）・公民館共催講座・公民館講座事業への協力・プレーパーク・学校、地域活動、他団体への協力など

乳幼児部会

「さくらんぼ」と「どんぐりようちえん」のメンバーの減少により単独で活動することが難しいことから1つになり、どんぐりんぼ、森ノンタン、ありんことともに実質3サークルでの活動でス

スタートした。初回の講座は年度初めの活動であったため、交流を兼ねて親子で遊びを通して子どもの発達と関わり方について学んだ。活動を通して、自分の子どもだけでなく、他の子どもとも関わりながら交流していた。

2回目の講座では、地震や災害が起きたとき、「どのような備えがあれば安心か?」「乳幼児を抱えていると不安」ということから、「防災講座」を実施した。講師が実際に防災バッグとして準備しているものを手に取って見ることができ、話も具体的であったため、熱心に質問をしながら話を聞いている姿が見られた。

前期最後は、「我が子自慢と子育ての悩み」をテーマに座談会を行った。受講者の感想には、子育ての悩みを話すことにより、人と共感できたり、違う視点からアドバイスをしてもらうこともでき、気持ちが少し楽になったとあった。会議や講座に集中して参加できるようにと部会のお母さん同士で子どもの保育をする相互保育は初めての取り組みであったが、保育者の気持ちや大変さなど様々な気づきがあり、「相互保育をして良かった、今後もしていきたい」という意見があった。

後期の講座について3サークルの代表者で行う合同ミーティングで知りたいことや気になっていることについて出し合った。色々意見が出た中で関心が高かったのは、子どもの成長や発達についてであり、昨年好評だった滝口みどりさんの話が聞きたいということになり、講師に招いて講座を行った。0歳から2歳の発達で大切な「食・睡眠・遊び」についての内容だったが参加者が一番聞き入っていたのは「食」についてで、参加者はメモをとったり、活発に質問をしていた。

後期最後は兄弟の育児について知りたいという意見が多かったため、他の部会の兄弟構成が様々な先輩お母さんを交えての座談会を行った。参加者からは、先輩お母さんが子育ての深い話やいろいろな視点から話をしてくれたので良かったという感想が多くあった。横のつながりだけでなく上下のつながりのある子育てネットが貴重な場であり、本当に有難い存在だと感じたようだ。

なかなか一般の申込が得られず、次年度は講座のニーズや周知方法を考えていく必要があると感じた。また、それぞれのサークルの活動を知ってもらい、加入へ繋げていきたい。

<課題>

サークル存続のためにメンバーを増やす工夫。一般のかたへの講座の周知方法。

プログラム

前期 5/28 交流会「あそぼう!学ぼう!楽しもう!」/朝日陽子・高岡和美(NPO 法人えーる)

6/21 講座「準備できてる?いざという時の備え」/おやとこらいぶねっと

7/2 座談会「話してみよう!聞いてみよう!子育てのこと」

後期 10/25 講座「今知っておきたい!乳幼児期の食と発達」/滝口みどり(ふりいすぺえすモモ多可)

11/22 座談会「みんなで見つけよう!“ま、いっか”のコツ」/先輩ママ



園児部会

部会のメンバーが35人もいるが、3分の1は乳幼児部会と掛け持ちし乳幼児を抱えて部会に参加しており、または小学生の子どもをもつ親であるなど、他の部会と掛け持ちで園児部会に関わっている人が大半である。園児に関する悩みというよりも、乳幼児期から学童期に至るまで幅広い悩みが語られている。座談会では小遣いやひとりで遊びに行かせる時期、小学校までにおきたいことなど幼児期らしい悩みが出て、後期の講座として取り組むことになった。部会長はメンバーの声を聞き、レクリエーションを開くなど相互の交流に力を入れ丁寧に会議を進めていった。

しかし会議の出席率が低く、声を汲み取ろうにも同じ顔触れでは話が深まらないこともあった。半面、連絡事項などはLINEで済まされることが多く、部会に直接関係ない個人からの情報が発信され、その対応に部会長が頭を悩ます場面もあった。しかしそのような中から、対面で話し合うことの大切さに気づき、部員には会議への参加を促すとともに、みんなが集まりたい部会の在り方を考えることの発端となり部会の活性へとつないでいった。

一方で、講座のちらしを配布しても新会員の申込がないことも課題の一つとしてあがっている。広報の仕方や、新しい人への呼び込み方も考えていきたいところだ。



<課題>

他部会と合同で学習に取り組むなど他部会との連携を密にする。

主体的にかかわり、活動を楽しむ環境づくり。

新規会員を増やす。

プログラム

テーマ「Enjoy みんなでつながろう」

前期 5/30 座談会 6/27 食事から子どもを知ろう/金石愛子 7/4 座談会（講座の振返り）

後期 10/31 守ろう、学ぼう、子どもの防犯講座/貝塚警察 11/29 先生教えて。小学校のあんなこと、こんなこと/貝塚市教育委員会 12/2 聞かせて、先輩お母さん、小学校のこと/ネット OG

小学生部会

年間テーマは「子どものええやん見つけたい」—寄り添い向き合う低学年 信じて見守る高学年 親は焦らずじっくり 子どもの「ええやん」見つけたい—と長めのテーマとなったが、それは今年の部長と副部長がみんなの声を集めて作りたいという思いで決まった。

今年の特色として、もとは中高生部会が行っていた「見守りスタディ」（子どもたちが公民館で夏休みの宿題をし、大人がそれを見守る）をするのは自分たちだと、小学生部会が主体となり取り組むことにした。そこに、公民館からの呼びかけで、うち1回を一般の子どもを受け入れ「夏の子ども講座」として開催した。

他にも、小学生部会は仕事を持つ保護者が増え、月1回の会議（平日の午前）になかなか参加できない人たちのために「ナイト公民館」（夏休みの夜時間に食事を持ち込み集まる）を開き、日頃は仕事で参加できない人たちと時間に追われることなく、ゆっくりといろいろな話し合う場を持った。その機会が後期講座を決める際にも役立った。しかし、次年度の役員選出がなかなか決まらず、何

度も会議を持った。

後期は子どものココロとカラダの成長についての講座を企画した。1年生から6年生と体も大きく変化し、それとともに心の成長も著しいといった講師の話に講座に参加した保護者たちは自分の子どもを重ねて考える時間とした。また、その後の座談会ではそれぞれ感じたことを共有するよい場となった。



プログラム

前期 5/16 座談会 THE・(座) 談会～しゃべってスッキリしませんか?～

6/20 講座「小学生の今」～取り巻く社会の現状を知ろう～ 水取 博隆 (NPO 法人キリンこども応援団代表 理事)

後期 11/21 講座「6年間のココロとカラダの成長を知ろう」 中川 智子 (精神保健福祉士)

12/5 座談会 THE・(座) 談会～気軽に交流しましょう～

<課題>

会議や講座の持ち方の工夫。 次の担い手を育てる。

中高生部会

年間テーマは「思春期をともにのりきる!!」となった。中高生部会のテーマにほぼ毎回、思春期が含まれるが、それだけ難しく、厳しい時期であるようだ。

2年ぶりに水野先生を迎えた講座では、より早い時期に話が聞きたいと昨年から準備し、働く保護者や、子どもも受講できるように6月の土曜日に開催した。

講座には、ネットのメンバーだけでなく、一般の保護者と受験を控えた子どもたちも3人受講し、それぞれ聞きたいことが聞け、良かったとのことだった。昨年先生と個人的にメールで相談していた子どもがお礼を言いたいと来て、大学での専攻についても相談することができたと喜んでいた。

後期の会議で「縦の繋がりが弱くなっていることが心配だ」という意見がでた。縦とはネットの乳幼児部会から中高生部会の4部会のこと、それぞれ交わることが昔よりずっと減っており、中高生部会のメンバーは、サークルの親子がまったくわからない状態である。以前からもそんな声はあったが、コロナによってそれがより顕著になったという意見もあった。後期はその繋がりを「どうにかできないか」という話があり、それはネット全体の問題ということで10月のネット研修会で取り上げることになった。中高生部会は「自立」を取り上げた。

座談会や講座から「家庭でそれぞれの自立があり、子どもそれぞれの自立もある。親としてどう関わるか、難しいがじっくり向きあい考える時間ができて良かった」「難しいけれど、考えないといけないと思った。参加して良かった」といった意見が出ていた。

小学生部会以上に、仕事を持つメンバーが多く、会議に集まれる人数は少ない。ラインなどで意見を出してもらっているようだが、まとめるのは難しく、夜間の時間帯に会議を行い、対面で話し合いを試みた。

プログラム

前期 5/21 座談会「うちの子大丈夫なん?話してスッキリ聞いて安心!!」

6/9 講座「大学受験だけじゃない!多様な進路選択」 水野 保 (進学アドバイザー)

後期 11/18 座談会「子どもとの距離感」～どこまで関わってますか?～

12/16 講座「子どもとの距離感」～自立に向けた関わり方～ 九十九 綾子(大阪府公立学校チーフスクールカウンセラー)

<課題>

会議や講座の持ち方の工夫。 縦のつながりの機会をもつ。

プレーパーク

年間 14 日間の開催で 1500 人ほどの利用があるプレーパーク。30 年の歴史の重みや、ここ数年の実行委員の減少に次の担い手が生まれにくい状況があった。

今年は委員長の交代を見据え春に学習会を行った。学習会はプレーパークの理念「自分の責任で自由に遊ぶ」とは何かをワークショップ形式で掘り下げ、リスクとハザードの意味を理解し考える機会であった。夏のプレーパークで早速実践に移し学んだことを確かめ合っていた。

自然を相手にしたあそび場では危険なこともたくさんあるが、林の中でカブトムシを捕まえたり、水遊びや泥遊びに夢中になる子どもたちの姿が見られると、この場を繋げていきたいとの思いがそれぞれの胸に沸き、すんなりと実行委員の交代ができるようにも見えた。しかし、現実には難しく交代に向けて何度も話し合いがもたれた。

運営の厳しさはあるものの、プレーパークは社会の中でもますます重要視されている。最近では、会員の夫が実行委員の一員として加わり、手製のミストシャワーをつくったり、力仕事を担ったり、ダイナミックな遊びで子どもを喜ばせるなど、雰囲気を変えるキーパーソンとなっている。

父親の参画はもとより、シニア層や地域の大人の参画も視野にいたれた展開を考える時期にきている。第 13 回貝塚公民館大会や居場所づくり講座のパネラーとして、プレーパークの実践報告が行われることを見ても周りからの注目度が高いことがうかがえる。

<課題>

プレーパーク実行委員やプレーパークに関わる担い手を増やす。

実行委員が楽しく関われる工夫。

◆研修会 (10/15、3/13)

今年度は 2 回の研修会を行った。10 月に恒吉紀寿先生(北九州市立大学教授)を昨年度に引き続き招いた。コロナの時期を経て、今はより対話が大事になっている。子どもの様子をきちんと見ながら互いの気持ちのすり合わせを行い今の活動を替えていくことや、ネット OB の朝日さん(NPO える理事)からは、目的が一緒ならそこに行く道は人によっていろいろな考えがあるというアドバイスをもらった。乳幼児部会を中心に 40 人という多くの人が研修を受け「なにかやってみよう」という気持ちになった人が多くいた。

3 月 11 日には第 13 回貝塚公民館大会第 2 弾の講師、西川正さん(NPO ハンズオン埼玉代表理事/岡山市立真庭図書館館長)を招き、大会後に時間を取ってもらい、ネットが抱える運営の悩みや、持続可能な組織運営の方法についてアドバイスをもらった。次年度、各部会のリーダーとして関わるメンバーが集まり、どうすれば活発な意見や企画が生まれるのか引き出す方法などを質問していた。

ラインを連絡方法として使いつつ、対話で物事を決めることなどヒントになる話をたくさん聴くことができ、リーダーたちは安心した表情をみせていた。

文化団体

<ねらい>

団体の主体的な運営のもと、市民の手による文化活動の実現。

団体に活動の意義や役割についての理解を深めてもらい、活動拡大につなげる。

<状況・成果>

各団体とも例年どおり、定期的な活動を行うことができた。長く続いたコロナ禍で文化活動が制限されたことにより、各団体も構成員の離脱などが相次ぎ、苦しい時期を送っていたが、ここにきて、人員も増加しており、徐々に活動も活発化しているようだ。



貝塚市民踊連盟の「民踊まつり」は、昨年まで山手地区公民館ホールにて開催していたが、今年はコスモシアター中ホールで開催した。人数の減少などで危機感を覚えた役員たちが、中央公民館まつりや、文化協会展など、自主的に活動の幅を広げる努力を重ねたことで、少しずつではあるが、構成団体も増加している。今回は久しぶりにコスモシアターでの開催となり、2団体にゲスト出演を依頼した。踊りの演目も増え、当日はより華やかな舞台となった。

貝塚市クラシック音楽家協会は今年度発足 40 周年を迎えた。5 月には、「貝塚市クラシック音楽家協会発足 40 周年記念コンサート～弦楽四重奏と共に～」を開催した。今回のコンサートでは、これまでのように協会の演奏を順に披露する形とは異なり、弦楽四重奏のゲスト演奏者とともに、協会員がピアノ演奏を披露したり、オペラ「フィガロの結婚」を抜粋して演奏したりと工夫を凝らした舞台となった。特にオペラの演奏では、軽妙なセリフとともにモーツァルトの聴き馴染みのある音楽で会場も盛り上がった。



貝塚市美術協会は6月の総会を経て、幹事その他役員が大幅に変更した。今年度より新たなジャンルとして写真クラブの数人が正式に会員に加わり、内容も充実してきた。そのようななか、長く役員を務め、今期は書記を務めていた会員が突然亡くなるという訃報があった。



「第 57 回美術協会展」では、故人の作品も出展され、会場の視聴覚室には、絵画、陶芸、写真など合計 34 点の作品が展示された。公民館では SNS も含め、宣伝に努めたが、思うように客足は伸びず、場所や日程の変更、宣伝手法の検討など課題を残した。

1 月の小作品展では、絵画作品 34 点、写真 8 点、陶芸 5 点がロビーに展示された。一面に、来館者が作品鑑賞後の感想を付箋に書いて貼り出すコーナーを設置したところ、「街の芸術家のみなさん、これからがんばってください」、「水彩、油彩、写真といういろいろあって楽しいですね」といった感想が寄せられた。

貝塚市日本民謡連合会の「2024 年民謡フェスティバル」は、昨年に引き続き山手地区公民館ホールを会場にして開催した。当日は会主の演奏も含め約 56 曲の民謡及び民踊が披露された。

民謡は現在最も会員の減少が顕著で、団体の活性化が急務となっている。チラシを作成したりし

て、公民館でも宣伝に努めているが、高い関心を得るには至っていない。そこで、今回の「2024 年民謡フェスティバル」では、ポスターを作成し、各公民館で掲示したほか、役員が自らの縁で掲示場所を見つけたり、知り合いに声掛けを行ったりして宣伝に努めた。

役員も少しずつではあるが、互いに協力しながら会の活性化に向けてできることをやっていこうという意識が芽生えつつある。公民館では今後も寄り添いながらの支援が必要である。



貝塚市合唱連盟が主催する「合唱フェスティバル」は、昨年と同じくコスモスシアター中ホールで開催し、市内及び近隣市町で活動する 16 団体が出演した。

今年度は広報や周知方法も不足ぎみであったが、客席には 300 人以上の人が集まった。オープニングは熟年コーラス銀の貝と貝塚少年少女合唱団による「貝塚市民の歌」、休憩後には客席も含め会場にいる全員で「ふるさと」を合唱するなど、盛り上がった。

各団体の演奏は演出や衣装に工夫を凝らし、全員が楽しそうに歌っている姿に会場も和やかな雰囲気につつまれた。

貝塚市軽音楽連盟の「第 39 回ライトミュージックコンサート」は、2/16（日）に小ホールで開催された。今年度は 4 団体のうち、1 団体が出演しないなど、人員が少ないなかで開催された。

スイングジャズや、歌謡曲をアレンジしたバンドなど、多彩な曲目が披露され、来場者は迫力のある演奏に聞き入っていた。しかし、1 団体が減ったことで思うように客足は伸びず、昨年より観客数は減少した。次年度は 4 団体すべてが出演するコンサートとなることを期待したい。

一度コロナ禍でダメージを受けた文化団体だが、最近は徐々に力を取り戻しつつある。これに満足せず、今後も団体を支え、活性化の一助となることで、地域の文化力向上や活性化につなげていかなければならない。

<課題>

各団体が自主的に運営できるようにする。

各団体の活性化。

団体名	事業	日時	場所	参加者
貝塚市民踊連盟	第 40 回貝塚市市民民踊まつり	5/12（日）	コスモスシアター中ホール	210
貝塚市クラシック音楽家協会	貝塚市クラシック音楽家協会発足 40 周年記念コンサート～弦楽四重奏と共に～	5/19（日）	コスモスシアター中ホール	317
貝塚美術協会	第 57 回美術協会展	9/14（土）～9/15（日）	視聴覚室	90
	小作品展	1/12（土）～1/26（日）	ロビー	—
貝塚市日本民謡連合会	2024 民謡フェスティバル	11/10（日）	山手地区公民館ホール	70
貝塚市合唱連盟	第 47 回貝塚市合唱フェスティバル	12/1（日）	コスモスシアター中ホール	310
貝塚市軽音楽連盟	第 39 回ライトミュージックコンサート	2/16（日）	コスモスシアター小ホール	100

利用者団体代表者会議

<ねらい>

公民館を利用する団体に公民館の意義や利用方法について理解を深めてもらう。

<状況・成果>

2/27 木曜日 14時（昼の部）・19時（夜の部） 対象：クラブ協議会所属クラブ代表者

3/3 月曜日 14時（昼の部）・19時（夜の部） 対象：クラブ以外の団体代表者

参加団体 2/27 32団体 3/3 42団体

利用者団体代表者会議（以下、会議）は昨年4年振りに開催し、コロナ禍で中止していた期間に新たに利用するようになった団体も増えていたことから、公民館をめぐる近年の動向と課題、公民館の基本的な事項（開館時間、利用時間区分と料金、部屋の種類等）や、利用にあたっての注意点、利用届出書提出について、講義方式で行った。

今年は、昨年参加した人もいるので、同じような内容ではなく少し趣向を変えて、公民館の基本的な説明に加え、ワークショップを取り入れることにした。

ワークショップは5～6班に分かれて、各々のテーマに沿って話し合いをしてもらった。

27日のクラブ協議会に対しては、クラブ同士の交流も兼ねて、「このメンバーで、協働して公民館で何かできるとしたら」というテーマで話し合ってもらった。

最初は「難しい」と頭を悩ませていた参加者も、各班のメンバーと打ち解けていくうちに、次第に話が弾んでいった。出てきた意見は「各団体の個性を生かしたパフォーマンス発表会」、「絵手紙や陶芸などの展示を見てもらいつつ、音楽を聴いてもらうような発表会」「盆踊り大会」、「日本文化を外国人に知ってもらえるようなイベント」「同じジャンル（料理、ダンス、音楽など）のクラブが集まったイベント」「参加者も募集して大きな絵画作品を大勢で共同制作する」「パソコンに不慣れなクラブ員対象のパソコン教室」など多彩な意見が出てきた。

3日のクラブ以外の団体に対しては、普段各々の団体が交流する機会はないため、互いの活動を知ってもらうところからはじめようと、「私の活動、自慢したいところ、これからやりたいこと」をテーマに話し合ってもらった。

自慢したいところには、「仲間ができる、つながりができた」という意見から、「ストレス発散」、「長く続けてこれた」、「楽しく和気あいあいと活動している」といった活動の喜びについての意見が出た。

これからやりたいことには、「地域での活動につなげていきたい」といった意見から、「活動メンバーの増加」、「コンクールなどでの入賞」や「大きな発表会の開催」といった前向きな意見も出た。

<課題>

開催年度の検討（毎年もしくは隔年など）。

利用団体の交流も含めて内容の充実をはかる。

